

明代寧波沿海部における開發と移住

本田 治

一、はじめに

中国史上いくどか、波のうねりのように大きな規模で人々が陸続と移住した時期が存在した。多くは戦乱・自然災害・飢饉など負の要因によって押し出された人々がやむにやまれず現住地を離れ移動したもので、やがてそのうねりも時間の経過とともに終息し、静かな日常にもどるものと考えられていた。そうした集団的で大規模な移動・移住も含めて、基本的に伝統的中国社会が移動性の高い社会であったこと、移住によって開發が進み地域社会が再編成され新たな秩序が構築されることは、すでに斯波義信^①や山田賢^②の研究が明らかにしたところである。最近の沿海都市部への労働人口の移動傾向が著しい中国でも人口史・移住史研究への関心がたかまり、葛劍雄・呉松弟^③らによって総合的研究が始まっている。

本稿の考察の対象である明代寧波沿海地域の開發と遷住に関連する先行研究としては、まず寧波開發史を詳細かつ総合的にあつげた斯波論文^④があげられる。本稿の基本的枠組みは斯波論文から得ている。その末尾に『民国鄞県通志』輿地志の氏族の項を整理した表が付され、多くの移住情報を含んでおり、参考の便に供している。上田信の研究^⑤は、奉化県忠義郷における唐以来の移住と開發の歴史を精密に分析している。今のところ、この二論文につづく本格的な研究はないが、現在多くの研究者が多方面から寧波研究に着手しており、今後多くの成果が発表されるで

あろう。本稿は昨年発表した宋代明州地域への遷住に関する考察につき、^⑥明代同地域における状況を観察したものである。

二、移住情報の来源

今回使用する移住情報の来源について確認し、前もって了解を得ておきたい。本稿は明代を扱いながら、ほとんど明代の同時代史料を使用していない。データを近年中国で刊行された三種の書物から得ている。その基本となっているのは『寧波市地名志(市区部分)』第一冊(寧波市地名委員会編、一九九三)である。同書の前言によれば、この書の編纂のきっかけになった調査は一九八一年から一九八六年にかけて行われ、その目的は地名表示の近代化作業のための基礎資料の提供であった。一地名あたり一〇〇から二〇〇程度の字数で聚落名とその沿革、開村時の氏族の動向などを簡潔に説明しており、その中に移住情報を含んでいる。他の二書は、近年中国全土で編纂発刊された現代版地方志で、『鄞県志』(同書編纂委員会編、中華書局、一九九五)第四篇人口附・鄞県姓氏源流の項と『鎮海県志』(同書編纂委員会編、中国大百科全書出版社、一九九四)第四篇人口第四章姓氏の項を使用した。両書とも姓氏の項目は人口に関する情報の一部として記述されている。二書は『寧波市地名志』に比べるやや簡略化されているが、姓氏別にまとめられ、それぞれの記述の中に遷

住年代、始祖、元住地、移住地、再移住、分派などの移住情報を含んでいる。『鄞県志』は先述の『民国鄞県通志』輿地志の氏族、氏族表の内容を踏襲している。清・徐兆昺『四明談助』（寧波出版社、一九九〇）は先述三書も参照しており姓氏情報に特化した史料ではないが補助的に使用した。

歴史研究にこの種の編纂資料の使用に関して異論が存することは承知している。それらの資料が依拠している根拠の問題、文字資料のほか現地に伝えられる口碑伝承に及んでいる点のひとつと、もうひとつは明代から時間が経過したあと編纂された二次的な史料という点にある。敢えて使用した理由は、現地で同内容の調査を行うことは事実上不可能であること、これら問題を克服するには、記述内容を地方志、墓誌銘、族譜など個別史料を逐一点検することが望ましいが、それは筆者の能力をこえていることなどに因る。しかしこれら編纂史料の利用が改善の選択というマイナス面ばかりではなく、積極的側面が存することも確かである。精粗混じった個別史料の集積よりも、専門家の合理的基準でもって取捨選択され叙述された史料の方が目的にふさわしい場合もある。少なくとも数量化して一定の傾向を読み取ろうとする場合、均質化された史料の方が目的に適っているし、同時代史料ではなかなか知りえない情報も多いのである。

三、沿海部の範囲

次に考察の対象地域と史料との関係について述べておく。主要な情報源である『寧波市地名志（市区部分）』は書名が示すように、その収録地域は、現在の寧波市の海曙区、江北区、江東区の三区で、うち段塘鎮・西郊郷・福明郷、湾頭郷が旧鄞县城と郊外地区にあたり、慈城鎮（旧慈

溪县城）、妙山郷・雲湖郷（旧雲湖郷）、洪塘鎮（旧西嶼郷・徳門郷）、裘市鎮（旧裘墅郷）、莊橋鎮（旧莊橋市）、費市郷（旧靈陽郷）、乍山郷・半浦郷・東郊郷（旧江嶼郷）は旧慈溪県に属し、北郊郷は旧鎮海県白沙郷・庄賽郷・梅堰郷に属していた。

『鄞県志』は、邱隘鎮、梅墟鎮、五郷鎮、宝幢郷、莫枝鎮、高錢鎮、韓嶺郷、下水郷、咸祥鎮、球山鎮、瞻岐郷、大嵩郷、東呉郷、天童郷、下底鎮、潘火郷、雲龍鎮、甲村郷、姜山鎮、麗水郷、朝陽郷、横溪鎮、金峨郷、梅嶺郷、鍾公廟郷、陳婆渡郷、石碶鎮、櫟社郷、古林鎮、屢蛟郷、布政郷、鄞江鎮、梅園郷、章水鎮、大皎郷、赤水郷、横街鎮、愛中郷、雲洲郷、集士港鎮、白岳郷、高橋郷、望春郷、岐陽郷、洞橋郷、寧鋒郷、龍觀郷、杖錫郷、茅山郷、塘溪郷、赤董郷、管江郷の諸郷鎮で城区を除く旧鄞県の全域が含まれる。

また『鎮海県志』は城関鎮（旧鎮海县城）、俞范鎮、臨江郷、澥浦鎮、駱駝鎮、長石郷、汶溪郷、貴駟鎮、莊市鎮、河頭郷、新碶鎮、高塘郷、小港鎮、江南郷、楓林郷、下邵郷、大碶鎮、鄞隘郷、塔峙郷、霞浦鎮、柴橋鎮、紫石郷、昆亭郷、白峰郷、上陽郷、郭巨鎮、塔峙郷、大榭郷、三山郷、梅山郷、澣山鎮をカバーしている。この三書は最近の行政区分に従って編まれており、収録範囲は重複がない。三書全体で旧鄞県・旧鎮海県と、旧慈溪県領域の一部をカバーしている。鎮海県の名称は清代以降で明代までは定海県といったが、使用する史料上の呼称と一致させるため鎮海県の呼称を使うこととする。

四、移住者の出身地

表一は『寧波市地名志（市区部分）』と『鄞県志』、表二は『鎮海県志』記載の明代における遷住の事例を姓氏別に整理したものである。表一の

1・1、1・2、1・3の三件の様に明らかに同一の事例と見なすことができるものもあるが、ただちに判断しがたい事例も多く、原則として資料としてすべて掲載し、カウントする場合には記述内容を考慮して一件とした。

移住者の中の出身地に記述がある事例では、寧波府内からの移住例が四七四、寧波府以外からの遷住が一三七となる。府外からの移住のうち省外から八一、浙江省内から五七となる。省外からの遷住で最多は福建20で、次いで安徽一八、河南一三、山東一一、江蘇七、湖南三、甘肅・江西・湖北二、河北・北京一、広東一の順である。福建から沿海部を北上する移住の流れは宋代から確認できるもので、明代にいたるも間断なくつづいていた。安徽の事例の多さはやや意外だが、出身州県を見ると、定遠県(3・1・3・3)・滁州(3・2)・鳳陽県(24・1、※のついた事例は表2を指す。以下同じ)があり、明の太祖の故地でもあり、衛所の設置とともに扈従の兵士が入鄞したのであろう。次いで多いのは徽州・歙県(17、26・1、36・3、44・3)で、歙県出身の姚氏は「徽州自ら服賈して鄞に來り、遂に城内月湖橋畔に家した」(36・3)とあり、寧波における新安商人の活躍を示すものであろう。江西省の二例はやや特殊で臨川県の出身の王氏である。北宋の慶曆七年(一〇四七)から二年間、王安石が鄞県の知事を勤めている。その際帯同した族弟の王安石が童氏の贅となり、以来、潘火郷王家弄王氏は明代にいたるも繁栄している(8・2、8・4)。元代にも王安石の子孫が臨川から天童街に遷住したという記録があり、宋元明を通じて出身地と移住先との交流がつづいていた。

浙江省内からの遷住事例五七のうち、四〇が西隣の紹興からの移住、八例が南隣の台州からの移住である。紹興府で県名の判るものでは、餘姚二三、上虞三、山陰・嵊二、諸暨・新昌一の順で、寧波と隣接する餘

姚県からの流入が圧倒的に多かった。次いで臨安府四、金華府二、湖州・処州・温州一の順である。これらの分布を見るに、明代寧波地域が移住者をひきつける誘引力の範囲はほぼ隣接する地域に限られ、浙江全体から寧波へ大きな移住の流れは認められない。ならば明代寧波沿海部の鄞県・鎮海県における移住は低調であったかというところではない。基準の設定の仕方では若干変わるが、鄞県(一部慈溪県を含む)と鎮海県における移住例四七七件(市区一五六・鄞県一八二・鎮海県一三九)に上り、かなり多い。つまり明代寧波地域における移住は殆ど府内で完結する近距離間の移住であったことがわかる。浙江省以外からの遷住を減少させた原因としては、宋の南渡や建炎の駐蹕のような寧波を巻き込む戦乱や政治的混乱は存在しなかったことと、華北で頻発した深刻な飢饉もその影響が直接寧波には及ばなかったことが考えられる。もちろん移住は出身地のプッシュ要因だけでは説明できない。受け入れる鄞県・鎮海県の状況を併せて検討する必要がある。

五、移住先

まず『寧波市地名志(市区部分)』記載の移住事例から検討すると、鄞県城五八(寧波府以外の浙江省内からの移住七・浙江省以外からの移住九、以下同じ)、西郊郷二八(一・七)、乍山郷一六(一・〇)、福明郷一五(一・〇)、東郊郷一三(二・三)、慈城鎮一三(二・二)、段塘鎮一一(二・〇)、妙山郷九(二・〇)、裘市鎮九(二・〇)、洪塘鎮八、北郊郷七(〇・二)、費市鎮六(一・二)、莊橋鎮五(〇・二)、半浦郷五(〇・一)、灣頭郷四(一・二)、雲湖郷二(〇・一)の順となる。総数二〇九件中、県城と慈城鎮その近郊(段塘鎮・東郊郷・西郊郷・北郊郷・灣頭郷・福明郷)で全体の約七一%を占め、都市とその周辺の誘引力の強さを示している。寧波府以外からの遠距離からの遷住例

は約二五%、実数で浙江省内から二二、省外から三二例となっている。

次に『鄞県志』に移ると、多い順から、望春郷一二(一・二)、茅山郷一二(三・〇)、朝陽郷一一(一・二)、潘火郷八(二・〇)、陳婆渡郷・集士港鎮八、邱隘鎮・姜山鎮・鍾公廟郷・古林鎮・横街鎮七、梅墟鎮・咸祥鎮六、麗水郷六(〇・二)、高橋郷六(二・〇)、莫枝鎮五、東吳郷・下応鎮・寧鋒郷五(二・〇)、石碇鎮五(〇・二)、章水鎮・雲洲郷四、天童郷四(一・〇)、龍觀郷四(一・二)、五郷鎮・韓嶺郷・梅嶺郷・塘溪郷三、金峨郷三(〇・二)、蜃蛟郷・大皎郷三(一・〇)、雲龍鎮・甲村郷・横溪郷・布政郷・鄞江鎮・洞橋郷二、瞻岐郷・大嵩郷・白岳郷・杖錫郷二(一・〇)、梅園郷二(〇・二)、赤董郷一となっている。移住先が郷鎮レベルまで特定できる事例の総数が二二一件、うち寧波府以外からの遷住例は二九件で、全体に約一四%にあたり、先述の市区部分の二四%と比べるとかなり低い数字である。遷住者の多くは寧波府内の出身者であったこととなる。

次に『鎮海県志』記載の事例中、移住先が郷鎮レベルまで特定できるものは、最多の河頭郷一二(〇・二)から順に、鄞隘郷一二(〇・四)、莊市鎮一一(一・四)、臨江郷一一(〇・二)、駱駝鎮一〇(〇・三)、霞浦鎮九、柴橋鎮九(〇・二)、城関鎮九(二・三)、兪范鎮八(〇・二)、汶溪郷八、貴駟鎮・三山郷七、大碇鎮七(二・二)、小港鎮六(二・二)、長石郷六(一・〇)、澥浦鎮・高塘郷・楓林郷六(〇・二)、郭巨鎮五(〇・四)、江南鎮四(一・二)、下邵郷四(〇・二)、塔峙郷四(〇・二)、紫石郷四、新碇鎮・白峰郷・上陽郷・峙頭郷・梅山郷二、となる。総数一八一例中、寧波府外からの遷住が四二で、全体の二三%を占め、先述「寧波市区」の数字に近い値を示している。鎮海県は鄞県よりも府外者の遷住率が高かった。また県南の山間部を除けば、移住事例の数字も満遍なく分布している点も特徴として指摘できる。

鄞県と鎮海県への移住者のうち、出身地が寧波府内のものだけを集計すると次のようになる。鄞県への遷入の場合、出身県は鄞県一七三、慈溪県四七、奉化県一三、鎮海県一〇、定海県七、象山県五、寧海県三となる。鎮海県では、鄞県三〇、慈溪県二九、鎮海県一三、奉化県九、定海県七、象山県・寧海県(零)となる。異なる資料間で安易な比較はできないが、傾向として第一に指摘できることは、明代鄞県における移住の多くは県内からの移住者で占められていたという点である。華北・陝西のような遠方の地はもとより近隣諸省からの流入もそれほど大きくなかったことを示している。おそらく鄞県においては多くの入植者を受け入れることのできる土地は減少し、耕地/人口比において一定の飽和した段階に達していたとみてよいだろう。それに対し鎮海県の場合鄞県と少し事情が異なっていた。利用できる事例数自体が少ないので実数での鄞県との単純比較はできないが、県内移住者に比して相対的に県外からの入植者移住者の占める割合が大きいことが指摘できる。それは県東南部を除く沿海部では海岸線の外移と海塘(靈緒塘・莘公塘・金公塘・千丈塘)の建設が宋代から継続して進行しており、明初に河南から費市鎮跨塘周村に入植した周氏の場合、「其地原為海塘、明初有周姓從河南逃荒來此、子孫繁衍、跨塘建村、因名。」とあるように入植者を受容する余地を残していたからだと考えられる。また大きな移住の流れとして、餘姚県・慈溪県から鄞県・鎮海県へという潮流を認めることができる。

六、移住の動機

中国全土を見た場合、明代においても飢饉や戦乱、洪水や旱魃などの自然災害を原因として大規模な人口移動が起こっている。なかでも飢荒の影響が深刻であるが、江南の地は華北に比べると頻度も被害の大きさ

も深刻でない¹³⁾。先ず飢荒からはじめよう。

(一) 逃荒

明初、先掲の周氏がはるか河南を離れ寧波北一〇・五kmの費市鎮跨塘周村に入植した理由は飢荒であった(30・3)。寧波の東北五kmの北郊郷烏隘村に移住した烏氏も河南潁川の望族出身で、飢荒が原因で故郷を離れたとしている。後に窳業で成功して村落を形成するに至ったという(54)。同じく北郊郷の常洪村に入植した常氏も安徽省鳳陽県から元末明初の飢饉が原因で来郵している(61)。また明中期に陳氏は飢饉を逃れて象山県から寧波西北一〇kmの裘市鎮陳家村に移住した(67・6)。やはり逃荒の事例が少ないのは飢饉発生の中心たる華北・陝西との距離が影響しているだろう。

(二) 戦乱

明代寧波では宋室の南渡のような戦乱のために移住者が押し寄せるということはなかった。ただ難を避けるという意味では、明代寧波を含む東南海岸地方ではこの地方特有の「南倭」の問題が存した。移住動機として倭寇をあげている事例が幾つか見える。嘉靖年間、寧波府下の寧海県から鄞県朝陽郷邵江岸村に来住した邵一倫がそうである(32・3)。やはり内陸部の鄞県よりも鎮海県に事例が多い。嘉靖年間に倭難を避けて団橋寺村に移住した胡氏は福建の蒲城県の出身であった(28・2)。もともと鎮海県郭巨鎮駐屯の兵士であった黄氏は倭乱を避けて寧波城内と鎮海県紫石郷大溟村に分支したという(46・1)。戦乱では当事者も移住する。鎮海県南柴橋鎮周辺でいくつもの分家を擁した氏族周氏はもと山東省青州において兄弟三人で反元起義に参加し、失敗して寧波まで逃れたという(*18・1)。

(三) 官僚と衛所兵士

一般に官僚や兵士の場合、移住動機というより選択の余地なく来郵しその後定住するという場合である。宋代ではそうした地方官の事例が四五例に上った¹⁴⁾。しかし明代では洪武年間に秘書郎の童全が慈溪県から梅園郷建輿に移り、さらに鄞県城内月湖西岸に移り住んだ例(78・1)と、洪武年間に工部都水員外郎の毛倫が愛中郷烏岩から城中へ移住した例(7・1)、布政使の陳舜徳が南京から鄞県梅堰に移住した(42・2)の三例しか見えない。いずれも地方官として赴任したわけではなく、転々と任地を変わる間に遷住を念頭において各地に不動産を購入したという宋代の士大夫の徙居パターンとは異なる¹⁵⁾。

官僚の遷住例の減少に対して武官・軍人の遷入事例が著しく増加する。明末に兵馬指揮使の顧連堂が江蘇の崑山県から城内三角池に遷居した(110・1)のを除けば、多くは明初に寧波衛、定海衛、郭巨千戸所、大嵩千戸所などの部隊に指揮官として赴任した事例である。安徽省定遠県の万鍾は、洪武二八年に寧波衛指揮僉事に任じられ、城内万家弄に遷居した(3・1)。宣徳年間武徳將軍の尹俊は北京から大嵩千戸所に赴任し、十三世孫尹安吉が城内千歳坊に再移住している(5・2)。毛達斉も武徳將軍寧波衛右所正千戸として来郵し毛家弄に移り住んでいる(7・4)。明初、河南光州息県の郭得は寧波指揮百戸を命じられ城内二十四間に遷居した(67・1)。そのほか向氏・定海衛指揮使(6)、汪氏・世襲郭巨指揮使(*15・1)、汪氏・鎮海県東管郷清水浦(*15・2)、姚氏・郭巨千戸所(*24・1)、張氏・郭巨指揮使(*40・1)、陳氏・定海衛百戸(*42・1)、黄氏・郭巨千戸所(*46・1)、劉氏・定海衛指揮(63・2)、樊氏・定海衛世襲指揮簽事(*64・1)などの例があり、多くは河南・安徽出身の太祖扈從の兵士が世襲指揮として任ぜられたも

ので、いずれも定住を前提として赴任したものである。

(四) 逃亡と山紫水明

官僚に遷住事例の大きな減少は、北京遷都による政治中心からの距離の拡大という外在的要因に因るものと考えられるが、先述の倭寇のように寧波固有の問題も存在したのである。そのほかにも治安の悪化を思わせる事例がある。トラブルに巻き込まれた士大夫の逃亡先として寧波が選択されている。万暦年間、山東省黄県出身の仲氏は福建泉州に在任中、削職され逃亡して西郊郷墻門漕村に至ったとある(14・1)。また嘉靖年間、河南出身の朝臣の顔姓兄弟は禍を避けて鎮海県河頭郷杜郭村に遷住し、姓も沈と改めて隠れ住んだとある(※16・1)。私的な鬪争の果ての逃亡先ともなったようで、許氏3兄弟は仇敵を避けて入鄞し、追っ手の目をくらすため上陳・陶公山・西許村に分かれ住んで、姓も陳に改めたという(66・2)。これらとは逆に、当地の景色や純朴な俗に惹かれたことを遷住の動機として挙げた例が3例存する(30・7、68・3、68・4)から、簡単に結論をだすことはできないが、寧波は明代士大夫の目には魅力に乏しい一地方都市と映っていたようである。

(五) 入贅

入贅にともなう移住は北宋時代にも散見された。洪武の初め城西の子京は同じ鄞県峨道陳輿陳氏に入贅している。彼の先祖は南宋建炎年間に廬江から城西に遷住した御史中丞何鑄の十世孫とあるから(18・1)、その家柄のゆえに請われたのかもしれない。同じく洪武年間呂氏は奉川から城内汪氏の贅となっている(21)。嘉靖年間に柴橋鎮の沃氏は乍浦郷許家村許氏の贅となり、以後沃氏が繁衍したため村名を沃家村に改めたという(29)。五郷鎮土橋の畢氏は潘火郷横石橋仇(裘)氏の

贅となり、潘火郷に移住した。彼も南宋駐蹕時の提舉使畢朴育の十世孫を称していた(64・1)。県城紫薇街の蕭執中は陳輿陳氏の贅となっている(112)。先に王安石の族弟王安基が江西の臨川県から入贅した例を紹介したが、明代では県内もしくはそれに近い距離間で成立している。贅は婚姻と同様に地域社会における影響力の維持、向上を期待して行われるから、余程の有力者でなければ、県内で完結するのが一般的であったらう。

(六) 農民以外の移住者

移住者の多くは農民であっただろうが、商人や職人や漁民などの他の職種の人々も数は少ないが登場する。言うまでもなく明代寧波は国内だけでなく海外に開かれた海港であったから、多くの商人が来鄞し、それら商人の中には寧波に根を落すものもいた。姚氏は徽州から商売で来鄞し城内月湖畔に居住したとあり(36・3)、莊橋鎮林沐村で木材商として成功した沐氏は崇禎年間に福建から遷住したとある(28)。練光溪、光楨兄弟は福建武平県からやってきた商人で、磻溪の山水の勝に魅せられ、龍観郷に住み着いたという(86)。寧波が福建商人、新安商人の活動範囲に入っていたことを示すものであろう。

その他の職種では、嘉靖年間に鎮海北部から妙山郷にやって来て兪家村を開いた兪氏の先は木工であったと伝えている(34・4)。明末に河南潁川の飢饉から逃れて入鄞し、北郊郷烏隘村を開いた烏氏は、窯業で成功した(54)。沿海地域であるから漁民の移動もある。明初鄞の前徐村から福明郷牛郎漕村に遷住した徐氏は、初め捕魚を生業として後に開村するまでに繁衍した(52・2)。

(七) 兄弟偕行

移住事例を見ていると兄弟が行動を共にしていることが多いことがつく。例えば山東の任可潛・任可訢兄弟は鄆県金峨郷上任村に遷住したとある(13・3)。何の目的でどのようなようにしてやってきたのかは不明だが、長距離で困難な移動で頼れるのは血縁の絆ということであろうか。しかし鄆県梅墟徐家廬に住んでいた朱允盛・朱大才兄弟は、同じ鄆県内潘火郷林家畷に移住の際もやはり兄弟一緒に行動している(15・10)。必ずしも移動距離の大小の問題ではないようである。「兄弟兩人」(20・4)、「邵天一、邵元一兄弟」(32・3)、「周姓二兄弟」(30・10)、「周応期楷弟応運」(30・11)、「高本善・高本達兄弟」(60)、「兄弟倆遷此」(27)と2人の事例が多いが、「兄弟三人」(47)、「兄弟三人」(66・2)「厲尚忠・厲忠厚・厲尚悦兄弟」(91・1)、「兄弟三人」(18・1)など3人の例も4例もあり、鎮海県臨江中官路戴氏の場合には6人兄弟で移住している(73・1)。そもそも移住の実態がどのようなものであったのかについて情報が無いので、ここでは兄弟行動をもにすする移住の事例が複数存在したことを指摘するだけしておく。

(八) 移住地の環境

移住先の地名の中にこの地方独特の文字を見出す。それらの文字の意味から選択された土地の共通の環境が浮かんでくる。

まず「塾」の字であるが、七里塾(6・1、8・9)、鄆県城東七里塾(68・16)、莫枝鎮沙家塾(25・12)、陳家塾(100)、周家塾(25・1)、駱駝楊家塾橋(56・5)などの地名が見える。塾とは『大漢和辞典』によれば音はテン、意味は「土地が低い」とある。『地名詞典』の鄆県寧鋒郷張家塾の項では、「南宋の建炎年間に張氏が此処に定居し

た時、地勢低窪にして、土を搬して塾して高くするに因り、故に名づく」とあり、低地に土を搬入して均した地面を高くした土地を塾と言った。したがって塾字を含む地はもともと居住や耕作に不適な低地だったことがわかる。

次に「塹」という字であるが、『大漢和辞典』では音はサン、意味は「墓域」とある。墓域に入植するというのはあり得ない。『四明談助』巻36、鏡川楊氏の項には「楊氏世よ家は鏡川の陽、小江湖の陰、麟鳳洲の上に在り、諺に楊家塹と称す。塹は方言なり。即ち洲なり。」とあり、寧波方言では標準的意味とは全く別な意味で使用されていた。楊氏の先祖は宋代に麟鳳洲という中州に入植している。中州は言うまでもなく所有関係が曖昧であり、居住環境としても耕地としても不適な土地である。明代の例では、鄆県莫枝鎮沙家塾に居住していた李氏は後に分居して同県雲龍鎮円塹に徙り住んだものがいた(25・3、25・12)。柴橋鎮鍾家塹(70・2)、鎮海県大碶鎮大碶塹頭(74・4)がある。

この他に地名表記に使われる方言には「塹」がある。『大漢和辞典』では音はトウ、意味は「わかれ限られた土地」とある。張氏は弘治・正徳年間に福建から西郊郷張家塹村に移住しているが、村名の由来について「塹は阜なり。建村の処 地勢較や高く、張姓世よ居するに因り名を得たり」とある。塹の場合も最初の開発から取り残され、後に遅れて開発された地区である可能性が高い。移住地や再移住地として見える塹は以下の通りである。鄆県舒家鍾公廟郷傅家塹(16)、朝陽郷李家塹(25・4)、西郊郷李家塹(25・10)、鍾公廟郷傅家塹(52・8、65・4)、西郊郷張家塹村(62・4、72・2)、鍾公廟畢家塹(64・3)、古林鎮郭塹(67・2)、蟹蛟郷前虞家塹(83・2)、陳婆渡鮑家旺塹(100)。

これら3種の地形条件を表す文字もしくは方言を入れた地名のうち、二例の塹を除けば、その分布は鄆県地区つまりやや内陸側に偏している。

このことは、明代鄞県における移住者の一部は既開発地域中に残された、必ずしも居住や耕作に適さない土地に入植し、また彼らの一部は開発に成功し繁栄したことを示す。

五、おわりに

最後に以上述べ来たった明代明寧波沿海部への移住の状況をまとめて結語に代える。明代寧波への遷住者を出身地別にみると、府内が四七四例、府外からの移住が一三七例（浙江省五七、浙江省以外の省七一）であった。外省では多い方から福建、安徽、河南、山東、江蘇、湖南、甘肅、江西、湖北、河北、北京、広東の順であった。盛んな福建からの移住は宋代にも見られた現象で、地続きに北上する流れではなく、海路によって直接、寧波につながっていた。二番目の安徽出身者は新安商人と衛所の軍人が目立ち、明代的特長を示している。浙江省内では西隣の紹興が圧倒的に多く、次いで南隣の台州であった。紹興府の中でも、寧波の慈溪県と接する餘姚県が半分以上を占めており、明代寧波の移住誘引圏は隣接する狭い地域に限られていた。もともと大きな特徴は、寧波府内で完結する近距離間の移住が、近隣府州からの移住の三倍以上も有ったことである。つまり明代寧波では外からの流入は少なかつたが、地域内での移住は活発であった。移住先から見ると、鄞県県城と近郊の占める割合が大きく都市の誘引力の強さを示している。鄞県郷村部の移住事例は県内に満遍なく分布しているが、府外からの流入は少なく、鄞県内での移動が半分以上を占めた。それに対し鎮海県では、鄞県に比べると県内移動の割合が低く、県外から移住者を数多く受け入れていた。このことは、鎮海海岸部にはなお小フロンティアが存在したこと、逆に鄞県郷村部の移住地に塾や塙や埕のような耕作不適地を多く見出すことから、

人口／耕地比において一定飽和状態に達していたとみなすことができ。移住動機から見ると、その特徴は明代寧波では一般に伝統中国で大量の流民を発生させる飢荒・戦乱の影響が殆ど見られないことである。明代寧波の移住の多くは生命の危機を回避するためといった切羽詰まった移住ではなかつた。だとすると、近距離間とはいえ、活発に行われた移住は何の意味があつたのだろうか。おそらくは拡大途上にある宗族の分裂運動の一環としての移住でなかつたかと思う。一見関係のなさそうな兄弟偕行も入贅も、移住と同じく宗族の増殖運動の延長上に位置付けることによつて理解できるのではないかと考えている。また当時東南海岸地方では倭寇問題があつたが、寧波は倭寇の避難先に選択されており、猖獗をきわめるといふほどでなかつただろう。しかし寧波が逃亡者の潜伏先となつていること、官人・士大夫の遷住者が激減したことを併せ考えると、治安の低下が進行し、明代寧波の地域としての評価は宋代に比べやや低下していたように見える。

注

- ① 斯波義信「移住と流通」〔『東洋史研究』五一・一〕。
- ② 山田賢「移住民の秩序」(名古屋大学出版会、一九九五)。
- ③ 葛劍雄・呉松弟編『中国移民史一・六』(福建人民出版社、一九九七)。
- ④ 斯波義信『宋代江南開発史の研究』(汲古書院、一九七七)。
- ⑤ 上田信「地域の履歴―浙江省奉化県忠義郷」『社会経済史学』四九二、「村に作用する磁力について―浙江省鄞県鄞勇郷(鳳溪村)の履歴」上下〔中国研究月報〕四五五・四五六。
- ⑥ 本田「宋代明州沿海部における開発と移住」(二〇〇七年五月一七日、第五二回国際東方学者会議、シンポジウム「中国社会の持続と変容―その論理と実際」、於日本教育会館)。
- ⑦ 個々の姓族の動向を解明するには、伊原弘「宋代明州における官戸の婚姻関係」〔『大学院研究年報』一号、中央大学文学部、一九七二〕、岡元

司「南宋期温州の名族と科挙」(『広島大学東洋史研究室報告』一七、一九九五)、黄寛重『宋代の家族与社会』(東大図書公司、二〇〇六)のように、零細な個別史料を駆使して一族の経年変化を追跡するオーソドックスな手法をとる必要がある。

⑧ 『慈溪県志』(慈溪市地方志編纂委員会編、浙江人民出版社、一九九二)第二七編第二章第二節宗族第三節姓氏の記述があるが、前二書と比べて情報量が少なく今回は使用していない。

⑨ 本田「宋元時代温州平陽県の開発と移住」(『佐藤博士退官記念中国水利史論叢』国書刊行会、一九七四)、「宋代温州における開発と移住補論」(『立命館東洋史学』一九号、一九九六)。

⑩ 『民国鄞県通志』輿地志、癸編、氏族には「王仲翟宋元豊進士官右正眼言諱安基之孫」「安基以兄安赤知鄞県由江西臨川来鄞、贅於童者鄞東童王村也」とあり、族弟安基が鄞の童氏に入贅したとある。

⑪ 『民国鄞県通志』輿地志、癸編、氏族「元提舉使師仲自臨川来為王荊公安石之裔」

⑫ 江立華、孫洪涛『中国流民史・古代卷』(安徽人民出版社、二〇〇二)第一章第六節明清時期的流民。

⑬ 孟昭華編著『中国災荒史記』(中国社会科学出版社、一九九九)

⑭ 本田「宋代明州沿海部における開発と移住」

⑮ 竺沙雅章「北宋士大夫の徙居買田―主に東坡尺牘を資料として―」(『史林』五四・二)、伊原弘「宋代官僚の婚姻の意味について―士大夫官僚の形成と変質―」(『歴史と地理』二五四)。

⑯ 川越康博「明代海防体制の形成について」『大学院研究年報』一号、中央大学文学部、一九七二。

⑰ 『中華人民共和國地名詞典』(浙江省) (商務印書館、一九八八) 九五頁。

〔付記〕本稿は平成十七年度文部科学省研究費補助金「特定領域研究」(東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成―寧波を焦点とする学際的創生―)の成果の一部である。

(本学文学部教授)

表1、明代寧波沿海部（鄞県）における遷住

番号	姓	移住時期	出身地	移住地	始祖	再移住	備考	鄞県志頁	寧波市地名志	四明談助巻頁
1-1	丁氏	明	上虞県丁宅街	段塘鎮孔浦巷	上虞県丁宅街丁昂遷至段塘鎮孔浦巷。	其裔孫分居孔嘉橋。		276	87	
1-2	丁氏	?	上虞県丁宅街	段塘鎮孔浦巷	丁姓先祖自上虞丁宅街遷至段塘鎮孔浦巷。	清初分居于此（東郊鄉下茅塘村）。			255	
1-3	丁氏	明	上虞県	段塘鎮	又有丁姓明時自上虞遷至段塘。					
2-1	干氏	洪武間	餘姚県朗霞鎮	西郊郷干家塘村、西南2.6km（寧波からの距離、以下同）、西南2.6km（郷政府駐地からの距離、以下同）	干姓干明初洪武年間從餘姚朗霞鎮遷入。改用今名		原系寧姓定居、各大竺家塘、后外遷。		98	
2-2	干氏	嘉靖間	餘姚県朗霞鎮	西郊郷后干村、西4.2km、西3.1km	明嘉靖間、干姓從餘姚朗霞遷此。	子孫繁衍、分成兩村、称前干后干。	后、前干、子孫外遷、至1960年前于廢村。		95	
2-3	干氏	万曆間	餘姚県西門白龍王廟	咸祥鎮	干譽湖自餘姚西門白龍王廟遷至咸祥鎮。			276		
2-4	干氏	明中葉	餘姚県	城南黃墩（干家灣）	干文采自餘姚遷至城南黃墩（干家灣）。			276		
3-1	万氏	洪武28年	安徽省定遠県	城内万家弄	明洪武二十八年、寧波衛指揮僉事万鍾自定遠遷至城内万家弄。	十一世孫万斯大遷居杭州。甬上族望表載、定遠万氏、明戚遠將軍斌之子、自餘來。	有指揮万鍾（并子万武、万文）都督同知万表、都督僉事万報季、戶部主事万泰及子万斯選、万斯大、万斯同等人物。	276		
3-2	万氏	明初	滁州	鄞縣橋東	万氏明初自滁來、世襲指揮、賜第于鹽橋東、至第八世都督表建第于新街。	第十世總兵邦季建第于広濟橋西。	贈指揮僉事万公斌、字文質、有本濠州定遠県人、少沉静、有志節、元季擾乱、公集群保鄉里、明太祖起兵濠州、率所部來屬、太祖命充万戶、從即附費聚、入滁州、下和陽、搗饒征……洪武五年……隔陣死。		7-201	
3-3	万氏	明初	濠州定遠県	前臨鹽橋河	世襲指揮万公鍾、字采……洪武二十八年超授寧波營指揮、世襲賜第于鄞、遂家焉。				9-248	
4-1	仇氏	万曆間	象山県仇家村	西郊郷仇家漕村、西2.3km、西南2.1km	仇姓世居、于明万曆年間從象山仇家村遷此、因村中有河漕而得名。		相伝仇原姓襲。		96	
4-2	仇氏	明	慈溪県	潘火郷仇畢	仇梧崗自慈溪遷至潘火郷仇畢。			279		
4-3	仇氏	明	慈溪県	東郊郷仇畢村、東南4.2km、南3km	以主姓得名、据民国鄞県通志載、仇氏明自慈溪來。		旧分仇家畢家、現連成片。		257	
5-1	尹氏	明初	?	乍浦郷章尹村、西北17.9km、楊家橋北1km	据章氏家譜載、章氏祖上于明初從餘姚章家遷此、已延續20余世。尹氏其時遷入、來処不詳。				218	
5-2	尹氏	宣徳間	北京	鄞大嵩	武徳將軍尹俊由調北京遷至鄞大嵩。	其十三世孫裔尹安吉遷居鄞城千歲坊。		279		
6-1	方氏	洪武20年	古杭	鄞古林郷東北藍田	方讓五自古杭遷至鄞古林郷東北藍田。	其裔孫遷県内有白岳・石硯・七里壑・占岐等、省内有慈溪・桐郷・崇徳・餘姚・紹興・杭州・鎮海等、遷省外有揚州・宜興・上海・江西等。		279		

6-2	方氏	建文間	慈溪縣金川鄉方家(今餘姚市江中鄉方家)	乍浦鄉方家山頭村, 西北18km, 楊家橋西南1.7km	世居方姓, 方氏于明建文年間從慈溪金川鄉方家遷此。			220	
6-3	方氏	万曆間	慈溪縣	集任港方家	万曆季年方九成自慈溪遷至集任港方家。		方及成系寧海正學先生長子方中愈之裔, 先世曾變姓朱, 至九成復姓居鄞。	279	
6-4	方氏	明中期	慈溪鳳凰方家	灣頭鄉方家塘村北3.2km, 東北0.8km	方姓明初中期(400多年前)從慈溪鳳凰方家遷此定居。 南京工部都水司員外郎毛倫自烏岩遷至城內椅子漕。		有給事中毛弘、監軍兵部員外郎毛聚奎, 參議毛為光等人物。	279	
7-1	毛氏	洪武間	鄞縣愛中鄉烏岩	城內椅子漕	毛氏世居桃源上之烏岩, 自明初都水公徙居郡城西、置田築室。		甬上望族表云、城西毛氏自烏岩來。	279	4/110
7-2	毛氏	明初	鄞縣桃源上之烏岩	郡城西	半村居士于成化初年遷至雲洲鄉毛夾壩。		与椅子漕毛氏同族	279	
7-3	毛氏	成化初	城內椅子漕?	雲洲鄉毛夾壩	明時諸授武德將軍寧波衛石所正千戶毛達齊遷至毛家弄。		毛達齊為諸授武節將軍、荊州衛正千戶毛彬之弟。	279	
7-4	毛氏	明	?	毛家弄	遷石城訓導, 任武鎮令王琦由連山具相溪遷至鄞城小沙泥街。		有道光進士兵部武庫司主事王本哲為其弟。	278	
8-1	王氏	洪武7	廣東連州連山具相溪	鄞城小沙泥街	居董周王三姓, 王姓自江西臨川遷此。			278	256
8-2	王氏	明末	江西臨川	東郊鄉后章家橋村, 東南3.2km, 東南1.2km	王可久自臨川遷至樸社章家橋。			278	
8-3	王氏	明	江西臨川	樸社章家橋	王姓世居, 明末清初, 從江西省湖繩堂遷此。			90	
8-4	王氏	明末清初	江西省湖繩堂	西郊鄉王家村, 西北4.1km, 西北2.6km	王本太自慈溪黃山遷至鄞大沙泥街學士橋南巷內。			278	
8-5	王氏	嘉靖6	慈溪縣黃山	鄞大沙泥街學士橋南巷內	王啓鵬, 字羽超自慈溪嶺山遷至江東新河頭。		其二世孫王昌祚分居甬東二境廟跟。	278	
8-6	王氏	明	慈溪縣嶺山	江東新河頭	王姓世居, 明嘉靖間從奉化遷此。			90	
8-7	王氏	嘉靖間	奉化縣	西郊鄉石道地村西, 北4.2km, 西北2.7km	王鎮自奉化遷至鄞烏岩水坪村。			278	
8-8	王氏	明	奉化縣	鄞烏岩水坪村	王仲翟十一世孫王璩自潘火鄉王家弄遷至布政鄉王家及王兩漕。		其裔孫遷江東七塔寺, 七里壩, 梅墟及城內, 遷甬外有鎮海李家壩, 王家橋, 石門, 沈家門及京都。	277	
8-9	王氏	正統間	鄞縣新橋東王家庫	東郊松樹下漕	王仲翟十一世孫王璩自潘火鄉王家弄遷至布政鄉王家及王兩漕。			277	
8-10	王氏	天啓間	鄞縣潘火鄉王家弄	布政鄉王家及王兩漕	居戶于此。			277	
8-11	王氏	崇禎間	鄞縣潘火鄉王家弄	東郊鄉王家塘村, 南2.9km, 西南3.2km	村系王姓世居, 故名。王姓于明崇禎間自鄞縣潘火鄉王家弄遷來。			257	
8-12	王氏	崇禎間	鄞縣潘火鄉王家弄	福明鄉王家村, 東北5.7km, 東北3.4km	王安基六世孫王懋春自王家弄遷至鍾公廟鄉桑園			277	261
8-13	王氏	明	鄞縣東鄉王家弄	鍾公廟鄉桑園	王安基十三世孫武德將軍王養安, 字見泉自鄞童王遷至江東東勝街。			277	
8-14	王氏	明	鄞縣童王	江東東勝街	王安基十五世孫王遠泉自鍾公廟鄉桑園遷至潘火鄉農里王。			277	
8-15	王氏	明	鄞縣鍾公廟鄉桑園	潘火鄉農里王	王養正自本原王家弄遷至天童鄉農里			277	
8-16	王氏	明	鄞縣王家弄	天童鄉農里				277	

8-17	王氏	成化末	鄞県裘市鎮前王村	裘市鎮后王村, 西北 10.9km, 1.1km	明成化末年王姓從鄉內前王分遷此處, 發展成村, 建村在前王之后, 故名后王。			176
8-18	王氏	正德間	鄞県西修繕巷	柳庄坊	王文華、字克安、為元提令王彥稷之后, 正德間自景西修繕巷遷至柳庄坊。			278
8-20	王氏	正德初	鄞県莫枝堰鎮陶公山	西郊鄉王家塘村, 西 1.6km, 政府南 2km	王姓世居, 王姓于明正德初從鄞県陶公山遷此。			97
8-21	王氏	嘉靖11	鄞県甲村	姜山定橋后王	王啓之后, 王道躡自甲村遷居姜山定橋后王。			277
8-22	王氏	嘉靖間	?	梅墟姜家隴東	王碧川遷至梅墟姜家隴東。			278
8-23	王氏	嘉靖間	鄞県王夾磨	朝陽鄉王家	王和忠自王夾磨遷至朝陽鄉王家。			278
8-24	王氏	万曆間	鄞県乍浦鄉王山	半浦鄉小王山村, 西北 15km, 祝家西北 1.1km.	明神宗万曆間, 王山村王氏移居來此, 故名小王山。			227
8-25	王氏	明初	鄞県鳳下溪	大嵩鄉周湖塘	王彥自本県鳳下溪遷至大嵩鄉周湖塘。			277
8-26	王氏	明中葉	?	咸祥鎮	其二房脈一支遷象山, 一支遷嘉興。			278
8-27	王氏	明	鄞県彈塗漕	潘火鄉泗港前后漕	王氏(名失傳)遷至潘火鄉泗港前后漕。			278
8-28	王氏	明	鄞県浦口(一說燕山)	姜山定橋前王	王上相自浦口(一說燕山)遷至姜山定橋前王。			277
8-29	王氏	明	鄞県甲村	陳婆渡鄉	王万里自甲村遷至陳婆渡。			277
8-30	王氏	明	鄞県西前后王	江北岸	景西前后王王六卿遷至江北岸。			277
8-31	王氏	明	鄞県桃源鄉(?)	望春鄉望春山西	王某(名失考)遷至望春鄉望春山西。			277
8-32	王氏	明	?	鄞県陸王家	王西始遷至鄞県陸王家。			278
8-33	王氏	明	?	鄞県墟鎮	王海觀遷至鄞県墟鎮			278
8-34	王氏	明	?	西門口乙未坊后河	明儒官王景, 字子明、号平塾, 遷居西門口乙未坊后河。			278
8-35	王氏	明	?	鄞城三支街	王國楨, 字繼虞, 為宋魏國文正公王旦二十世孫, 遷至鄞城三支街。			277
9-1	包氏	明初	山東	江東包家道頭	明初包姓從山東遷往江東包家道頭。			213
9-2	包氏	万曆間	安徽合肥	西郊鄉后包村, 西 5.5km, 西 4.3km	包姓于明万曆間從安徽合肥。			92
10	古氏	明	福建	城内	古若塘自福建遷至城内。			280
11-1	史氏	嘉靖間	鄞城青石橋	橫街鎮	史良宰自本城青石橋遷至橫街。			281

11-2	史氏	明末清初	鄞東江東賢良巷史家	福明鄉史家村, 東5.3km. 史魏家北1km	世居史姓而得名, 史姓于明末清初自江東賢良巷史家分居于此。			264	
11-3	史氏	明	?	杖鏡鄉石板巖	員外郎史文三遷至杖鏡鄉石板巖。			281	
12	石氏	明初	?	陳婆渡鄉	石景濂·石才美·石延慶分別遷至陳婆渡鄉東石·中石·西石。			280	
13-1	任氏	洪武間	鄞東橫溪大壩	塘溪鄉天香岩 (原名天打岩)	任聖鳳自橫溪大壩遷居塘溪鄉天香岩 (原名天打岩)。	其裔有分居象山、上海及本縣象坎者。		282	
13-2	任氏	洪武間	鄞東甲村任家壩	甲村鄉大谷橋 (俗稱太古橋)	胡奉大夫任天祐, 字均祥, 為官司馬任魏二十五世孫, 自甲村任家壩遷本鄉大谷橋 (俗稱太古橋)			282	
13-3	任氏	明	山東	金峨上任村	山東人任可渭·任可新兄弟遷至金峨上任村。	有分居于本鄉芦花橋者。		282	
13-4	任氏	明	鄞東南姜山一帶	甲村鄉東任家壩	將仕郎任朝五自鄞南姜山一帶遷至甲村鄉東任家壩。			282	
14-1	仲氏	萬曆間	福建泉州	西郊鄉橋門漕村, 西3.6km, 西南3.3km	原籍山東黃縣, 后其子孫在福建泉州做官, 明萬曆官, 因故削職, 逃亡來此。			97	
14-2	仲氏	明末	鄞東西郊鄉橋門漕	西郊鄉仲家橋村, 西南3.7km, 西南3.5km	仲姓于明末從橋門漕遷此。			98	
15-1	朱氏	元末明初	?	雲湖鄉大壩村, 西北20.5km, 東1.25km	拋仗大壩朱家之先祖系元蒙古族人, 定居于此已六七百年。	村民多姓朱, 住于壩底的稱大壩朱家。		143	
15-2	朱氏	元末明初	安徽鳳陽	半浦鄉朱家沿村, 西北13.5km, 南0.8km	始居朱姓……朱姓元末明初自安徽鳳陽遷來。	光緒慈溪縣志稱朱家壩, 1958年建中橫河水利工程時, 堰廢, 1962年后, 朱家壩演化為朱家沿。		228	
15-3	朱氏	洪武間	鄞東咸祥鎮	塘溪鶴山	朱孝慶之后朱宗傳洪武年間自咸祥遷至塘溪鶴山。	朱孝慶南宋台州朱變之孫。		281	
15-4	朱氏	永樂間	鎮海縣朱家橋 (鄞北渡朱家橋)	茅山鄉	鎮海朱家橋 (一說鄞北渡朱家橋) 人朱士元南來至茅山鄉娶于康, 遂以耕種創業。			281	
15-5	朱氏	永樂間	鄞東寧鋒百梁橋	城西門外航船埠頭	朱性恩自寧鋒百梁橋遷居城西門外航船埠頭。			282	
15-6	朱氏	明初	定海縣海派金塘山	天封橋	至明初時, 徙金塘居民美郡城, 因家于郡之文博橋。	天封橋旧名文博橋。			25/80 5朱氏 宗譜
15-7	朱氏	明中葉	安徽	北郊鄉朱家村, 東北7.9km, 東3.8km	村以始居朱姓得名, 拋仗朱姓先世明代中葉自安徽遷此。			207	
15-8	朱氏	明末清初	餘姚縣	乍浦鄉東朱家村, 西北16.4km, 東2km	朱氏于明末清初從餘姚遷此定居, 有據可查已12世。	村中原有王韓二姓, 王姓多經商外遷, 韓姓清時已絕。		219	
15-7	朱氏	明後期	鄞東費市鄉更樓朱家	葵市鎮朱果村, 寧波西北8.5km, 南1.6km	明朝后期從費市鄉更樓朱家分遷來此。			177	
15-9	朱氏	明	?	梅壩	朱鈞衡遷至梅壩。			262	
15-10	朱氏	明	鄞東梅壩徐家壩	潘火鄉林家畝	朱允盛借兄弟朱大才自梅壩徐家壩遷居潘火鄉林家畝。			282	
15-11	朱氏	明	?	西門外花輪弄	朱寅芝遷居西門外花輪弄。			282	
15-12	朱氏	明	鄞東萬嶺	五鄉鎮彭家漕	朱定思, 字祝棟, 号挺之, 五鄉鎮彭家漕。	朱定思, 字祝棟, 号挺之, 為宋兵部尚書朱穎之后, 穎始遷鄞甲村, 其裔遷萬嶺。		282	
16	戎氏	明	鄞東箭家	鍾公廟鄉傅家埕	戎靜遠自本縣箭家遷至鍾公廟鄉傅家埕。			281	

17	江氏	明末清初	徽州歙縣	鄞城虹橋頭孝開街	明末清初、徽州歙縣人江彥煌、至鄞城虹橋頭孝開街。	江彥煌為宋紹興二年(1132)進士判歙州軍事江汝剛二十二世孫、清知貴州安順府江鏡清、四川試用知縣江字海為其居。	283	
18-1	何氏	洪武初	鄞城西北	金峨道陳魯陳氏后宅	何子京贊于金峨道陳魯陳氏后宅、遂居此。	此何氏源于廬江、宋建炎間、中丞何鑄居鄞城西北、子京十世孫。	287	
18-2	何氏	明	奉化鼎封山	居鄞朝陽何家	何永盛、何永振居鄞朝陽何家、分東西宅、東奉永盛、西奉永振。	相伝何氏世籍處州括蒼、后有何志名者、官明州奉直大夫而居奉化封山、再伝者遷鄞。因年遠諱氏失伝、遂以永盛永振為祖。	287	
18-3	何氏	明	奉化鼎封山	鄞麗水鄉何家何家	何永盛自奉化封山遷居鄞麗水鄉何家何家。		287	
18-4	何氏	明	奉化鼎月嶺	朝陽鄉下何	何居化自奉化月嶺居朝陽鄉下何。	其裔有分居隄門橋、西山牌門頭、沙港口及杭州北關門、奉化純湖、岱山東建者。	287	
18-5	何氏	明	鄞縣南姜茅山	咸祥鎮	何応元自鄞南姜茅山遷居咸祥鎮。	其裔孫分居舟山及隄門橋者。	287	
18-6	何氏	明	?	朝陽鄉何邵	何廷居朝陽鄉何邵。	別有何氏一宗居朝陽何家。祖名及遷居時代無考。	287	
19-1	余氏	成化間	鄞縣福明鄉余隘村	福明鄉南余村、東北3.5km、西北2.9km	余姓居住、故名。余姓于南宋時從福建遷至余隘、明成化間分居至此。		282	
19-2	余氏	成化間	鄞縣福明鄉余隘村	福明鄉直落河村、東北3.7km、西北3km	世居余姓、南宋時從福建遷入余隘、明成化間分居于此。		262	
19-3	余氏	明末	鄞縣蘇家村又碾頭余家	費市鎮黃田余家村、北11.6km、南1.1km	拋伝、明末蘇家村又碾頭余家有1戶遷此、從祖上分得耕地而大畷呈橫形、故名橫田余家。		194	
20-1	吳氏	元末明初	?	乍浦鄉吳家村、西北17.4km、南1.1km	以姓氏得名、村建于明初。	建國初吳姓只剩2戶、近10年、陳郎橋村村民在原吳姓旧宅基建房、戶口略增。	221	
20-2	吳氏	洪武12年	奉化鼎	鄞江鎮禪岩村	吳既明自奉化遷至鄞江鎮禪岩村。		287	
20-3	吳氏	洪武間	鄞縣石碶迎春橋	五鄉碑	征四郎散官吳志道自本縣石碶迎春橋遷至五鄉碑。	志道為唐明州刺史吳德裕之后。	286	
20-4	吳氏	明初	鄞縣楊木碶	北效鄉后吳家村、東北6.8km、東2.6km。前吳家村東北6.9km、東2.7km	村世居吳姓、拋伝、吳姓兄弟兩人于明初自鄞縣楊木碶遷來。	后子孫繁衍、分建南北兩村。	206	
20-5	吳氏	万曆間	福建	麗水鄉宅前(俗称石前)	吳德崇自福建遷居麗水鄉宅前(俗称石前)。	其裔有遷讓里、吳家及奉化金家堰者。	286	
20-6	吳氏	明末	鄞縣五鄉碑	投塘鎮吳黃村、西南3.9km、北0.6km	吳氏于明末自鄞縣五鄉碑遷來。	主姓吳黃以姓氏得名。	86	
20-7	吳氏	明末清初	鄞縣樟村石畷邊	龍觀鄉下孤山	吳丹岩自樟村石畷邊遷至龍觀鄉下孤山。	有分居龍觀鄉者。	287	
20-8	吳氏	明	鄞縣五鄉碑	洪塘鎮吳家村、西北6.3km、南3.4km	拋伝吳姓于明時由鄞縣五鄉碑吳家遷來。		170	
20-9	吳氏	明	?	梅嶺鄉吳家山	吳奇二遷梅嶺鄉吳家山。		286	
21	呂氏	洪武間	鄞縣奉川方門	鄞城木欄橋(俗称沙井頭)汪氏	呂可正自奉川方門賢居鄞城木欄橋汪氏。	其裔有分居城內沙井巷者、別有分居采蓮橋、鄞江者。分居者外有湖広、奉川及西北等地。	281	
22	宋氏	明初	山東	東郊鄉宋家村、南2.4km、西南2.7km	以姓得名、宋氏明初自山東遷此。		257	

23-1	宓氏	嘉靖慶隆	餘姚原文亨	慈城鎮宓家村，西北 13.7km，南2.1km	宓姓于明嘉靖至慶隆間從文亨遷來。		1864年前后毀于兵火，后重建。	136	
23-2	宓氏	明末	?	慈城鎮觀庄村，西北 12.1km，南3.8km	村始居陳張兩姓，元時已在此設官庄田。后来住此的宓姓也已400余年。		有小地名前觀庄后觀庄、原寫作官庄。慈溪雍正志曰景「元時果官采田，知果四百畝...各置庄收租作俸，謂之官庄。知果田在觀庄橋北。」采訪冊：「果東南，貴州按察使陳頤正所居。	137	
23-3	宓氏	明	河南	費市鎮宓家村，北8.7km， 東南1.2km	拋云、宓姓先祖于明朝中自河南來此，已伝17代。		城內四府前宓氏亦屬此派。	197	
23-4	宓氏	明	鄞城內漫浦橋	邱隘方嶺	宓仔、為宓彪之后、自城內漫浦橋遷至邱隘方嶺。			288	
23-5	宓氏	明	鄞縣樟村蟹岩	集仕港鎮宓家	宓正良自樟村蟹岩遷居集仕港鎮宓家。			288	
23-6	宓氏	明	?	麗水鄉橫山	宓酋居麗水鄉橫山。			288	
24	忻氏	明	定海縣金塘	莫枝堰鎮陶公山	忻麒、字公信、号繼陶、自定海金塘遷至莫枝陶公山。		其出祖為宋徽州刺史忻安慶、世居南安果、元進士徐行納言尚書右丞忻都、字宏勳、始遷金塘。	287	
25-1	李氏	洪武8年	鄞縣青山高堂	邱隘鎮鄉方嶺	李孝先、字伯元、自本果青山高堂遷邱隘鎮鄉方嶺。	其后裔孫有遷穿山·小港江橋北·餘姚·彭家漕·餘姚勒山·餘姚林山·諸暨灣底·包李隆·江東灰街·定海陀灣·鄞城君子宮·彈湖漕·梁橋。		285	
25-2	李氏	弘治正德間	青州→奉化縣	鄞城社壇橋之北	李氏之先、宋名臣孔部尚書育、本青州人、后徙家于奉化、凡八葉進士、自奉遷鄞、世居社壇橋之北。	明弘治正德間南塘翁始卜宅社南、其橋北敝廬、今猶稱李氏旧宅。			15-457
25-3	李氏	嘉靖間	?	雲龍鄉門樓	嘉靖年間李賢一居雲龍鄉門樓。	其裔遷居沈家門。		285	
25-4	李氏	万曆間	?	朝陽鄉李家埕	李世惠遷朝陽鄉李家埕。	其裔有遷居餘姚文亭者		285	
25-5	李氏	明中葉	?	樓社	李茂園居樓社。			285	
25-6	李氏	明末	?	古林鎮李家橋前李	李氏(名字失伝)遷古林鎮李家橋前李。	其裔孫有遷居賣面橋。		285	
25-7	李氏	明	鄞縣樓社江沿宅	城內沿河頭	李一元自樓社江沿宅遷居城內沿河頭。			285	
25-8	李氏	明	台州梅林	鄞城筱橋弄	李橋二由台州梅林遷鄞城筱橋弄	城內芝蘭橋亦屬此派。		285	
25-9	李氏	明	鄞城內李開街	大梁街→虹橋頭	侍郎李堂建第于大梁街、其曾孫孔部尚書李康先、字慈仲、号金蟾、遂徙居于此。	后遷于虹橋頭。		284	
25-10	李氏	明	鄞城西門麥池頭	西郊鄉李家埕，寧3.3km， 西南2.5km	李姓于明朝從寧波西門麥池頭遷此。	清乾隆初李姓外遷。村名沿用。		96	
25-11	李氏	明	?	陳婆渡鄉干墩	李道明至陳婆渡鄉干墩。			285	
25-12	李氏	明	?	莫枝鎮沙家塾	李千四居莫枝鎮沙家塾。	有分居雲龍鄉門樓。		285	
25-13	李氏	明清間	鄞縣宅前張李家	洪塘鎮双夾壩李家村，北 偏西12.3km，北2.8km	始居李姓，村处于兩山壩間、故名。李姓于明清間自宅前李家遷此。			160	
26-1	汪氏	嘉靖間	安徽歙縣孝女村	鄞城章魯巷	汪宏曾、字省峰、自安徽歙縣孝女村徙居鄞城章魯巷。		為曹越国公汪華派忠體公汪延皓之后、御史汪義方、教授汪思政、知果汪沃卿、尚書汪鑑、清光緒翰林汪受祿為其后。	288	
26-2	汪氏	嘉靖間	?	潘火鄉壩里王	汪必劍、字右泉、遷居潘火鄉壩里王。	其裔右遷居象山者。		288	

26-3	汪氏	天啓以前	餘姚縣羅江汪家	妙山鄉汪家村, 西北 19.2km, 西北 1.1km	以姓氏得名, 由餘姚羅江汪家遷來。		天啓 (1621-7) 慈溪縣志已載有汪家。	147	
26-4	汪氏	明中葉	鄞縣西雲洲鄉大雷村	鄞西雲洲莊家溪	大雷汪氏之后、汪承宗遷居鄞西雲洲莊家溪。			287	
27-1	沈氏	明初	慈溪縣沈師橋	西郊鄉沈家村, 西北 4.1km, 西北 2.7km	村以姓氏得名、沈姓于明初從慈溪沈師橋遷此、建有祠堂。			90	
27-2	沈氏	正統至景泰間	慈溪縣沈師橋沈家	西郊鄉沈家村, 西北 2.9km, 西 1.6km	沈姓于明正統至景泰年間、從慈溪沈師橋沈家遷此。以姓氏得名。			94	
27-3	沈氏	天啓年以前	慈溪縣沈師橋沈家	妙山鄉坊沿村, 西北 18.8km, 北 1.5km	村民以沈姓為主、沈姓自慈溪沈師橋遷來。	本鄉嶺下·上宅·北山下諸沈均從此分出。	天啓慈溪縣志作坊前……明沈養任御史、宅前有牌坊、故名坊前、前音近、演化為坊沿、至今。	151	
27-4	沈氏	天啓年以前	?	妙山鄉雙門頭村, 西北 18.4km, 西 0.3km	住戶沈姓。		天啓慈溪縣志作雙門頭沈。	147	
27-5	沈氏	明	?	茅山鄉沈風水	沈有開遷茅山鄉沈風水。	后分東西二族、東族祖文政、西族祖德政、其裔有遷寧海東陽橋者。	一說此沈宋末時來自河南。	288	
28	沐氏	崇禎間	福建	庄橋鎮林沐村, 北 6.5km, 西 2.6km	始居林沐而姓、故名。攬佺、沐姓閩人、明崇禎間來寧波經營木材致富、乃捐官建造大夫第于此。	后沐姓外遷。	光緒慈溪縣志稱林沐。	186	
29	沃氏	嘉靖間	鄞縣柴橋鎮	乍浦鄉沃家村, 西北 17.2km, 東南 0.6km	原居許姓、明嘉靖年間柴橋沃姓入贅、子孫繁衍、為村中主姓、而許姓氏銳減 (至今僅存 8 戶)、村遂名沃家。			218	
30-1	周氏	洪武 23 年	鄞縣大塘	望春鄉	朝奉郎周弘盛自本縣大塘遷居望春。	其八世孫周以岐遷江蘇上元縣。	四明談助載、望春橋西南有浮石周氏、俗稱庄周、即此派。有吏部尚書周心賓、知江都縣周志畏……。	294	
30-2	周氏	洪武 23 年	鄞縣大塘	段塘鎮官庄村, 西南 4.8km, 西北 1.5km	朝奉郎周弘盛明洪武 23 年自本縣大塘來、嗣在新庄、官庄原為朝奉郎周弘盛之田庄。			85	
30-3	周氏	明初	河南	費市鎮跨塘周村, 北 10.6km, 東北 1.4km	攬佺、其地原為海塘、明初有周姓從河南逃荒來此、子孫繁衍、跨塘建村、因名。			195	
30-4	周氏	明初	台州天台縣	天童鄉周家壩	周芳岩、為宋濂溪之裔、自天台遷居天童鄉周家壩。			294	
30-5	周氏	明初	定海縣岱山	瞻岐	周桂芳自定海岱山遷居瞻岐。			294	
30-6	周氏	明	台州天台縣	福明鄉周家村, 東北 4.1km, 西北 2.9km	始居周姓、明時自天台遷此、因名周家。			260	
30-7	周氏	正德間	台州赤城縣	茅山虎嘯周	周楷世因愛茅山之勝、遂自赤城遷居于茅山虎嘯周。	其裔有分居二十都者。		296	
30-8	周氏	嘉靖間	鄞縣月湖	茅山鄉周家埭	周郭自月湖遷居茅山鄉周家埭、為周埭之后。	族內分廟漚、上周、后周漚、樓下、前橫五派。族外有村東南五里官來弄一派。		294	
30-7	周氏	萬曆間	慈溪縣慈城鎮周家	乍浦鄉周家村, 西北 18.6km, 西 1.7km	以主姓得名、祖上于明萬曆間從慈城周家遷于此。			219	
30-8	周氏	天啓間	鄞縣周家壩	定橋茅洋	周金龍自周家壩遷居定橋茅洋。系周家壩始祖周伏初之孫。			294	
30-9	周氏	崇禎間	鄞縣潘火鳳橋	福明鄉李家漚村, 東 4.6km, 西北 1.5km	現居周陳兩姓、周姓于明崇禎年間自鄞縣潘火鳳橋遷徙至此。			264	
30-10	周氏	明末清初	?	慈城鎮大周家村, 西北 13.1km, 南 2.9km	明末清初周姓來此定居、后發展成村。	周姓二兄弟中一人分出至該村東北 300m 處定居、原處稱大周家。	村于 1863 年毀于兵火后重建。	136	

30-11	周氏	明末清初	茅山虎嘯周	金峨道陳舉	周初期楷弟心選自虎嘯周遷居金峨道陳舉。		相伝虎嘯周之周氏本姓劉，為漢室遺派，故虎嘯周亦有虎嘯劉者，其改姓之故無考。	296	
30-12	周氏	明	湖南	東郊鄉道士堰村，東南2.1km，西南2.4km	村以堰名，堰建于明代，据伝堰址系道士選定，故名。周姓于明代自湖南遷此，至今11代。		現村已在城市街區之中。	257	
30-13	周氏	明	鎮海縣周隘陳	江北岸農家堰（俗称倪家堰）	周仁齊，自鎮海周隘陳來，居江北岸農家堰（俗称倪家堰）。		仁齊為堰隘始祖章宇三世孫。	294	
30-14	周氏	明	象山縣	鄞西樟村嶺下村	周氏（名失伝）自象山遷居鄞西樟村嶺下村。	其裔徙居曠泉者。		296	
30-15	周氏	明	望春鄉新庄周家	姜山鎮新塘沿	周氏祀自本泉新庄周家遷居姜山鎮新塘沿。			294	
30-16	周氏	明	鄞泉望春新庄村	段塘鎮小漲堰村南6.4km，南1.8km	居戶多周姓，明代自望春新庄村遷此。			87	
30-17	周氏	明	鄞泉龍口周	下芯鄉六村	嘉靖貢生周敬南，字南坡自龍口周遷居下芯鄉六村。		龍口周氏始祖支安風橋來。	294	
30-18	周氏	明	？	鄞西雲洲鄉庄家溪橋下	周氏、行五一遷居鄞西雲洲鄉庄家溪橋下。	明末時，遭災喪亡殆尽，僅留行五一者一人移今地、尊為始祖。	此派周氏未時自奉化嗣后遷庄家溪北隅陸家堰。	296	
30-19	周氏	明	？	江東華嚴鎮東湖濟	勅封將仕郎周桂堂遷居江東華嚴鎮東湖濟。		翰林院檢討周翰為其后。	294	
30-20	周氏	明	？	詒嘉橋	周仕環居詒嘉橋。			296	
30-22	周氏	明	？	前周	周氏（名失伝）居前周。	裔孫有分遷舟山清林及本泉陳婆渡者。	其大房奉朝為始祖，十七房奉仕晉為始祖。	296	
30-23	周氏	明	？	橫街頭東南	周氏（名失伝）居橫街頭東南。		為浙江提學司署周肇、号董溪之后。	296	
30-24	周氏	明	？	望春山東南	周氏（名失伝）居望春山東南。			296	
30-25	周氏	明	？	李家橋周家	周氏（名失伝）居李家橋周家。			296	
31-1	林氏	明初	福建	慈城鎮七夾巖村，西北14.8km，東2.8km	明初福建林姓兄弟遷此定居、后戚姓外遷，民国初村中已無戚姓。	蔣家墩后王家墩、沿河頭及江東劃船巷、彩虹橋。	光緒慈溪縣志作戚家壩，以始居戚姓得名。由于戚七亭同、家夾当地音近、后者又均書字簡便、遂改称七夾巖至今。	135	
31-2	林氏	明初	鄞泉林村	湖濱冷靜街	明初林永寧自林村遷居湖濱冷靜街。			293	
32-1	邵氏	永樂洪熙間	慈溪泉	城內竹洲花園弄	邵敬先，自慈溪遷至城內竹洲花園弄、為宋康節先生之后。		明時有提學邵玉、刑部郎邵城、清時有巡撫邵基、檢討邵錄、知州邵陸、侍郎邵洪等人物。	293	
32-2	邵氏	嘉靖間	洛陽	朝陽鄉何邵	邵普恩自洛陽徙至朝陽鄉何邵。			293	
32-3	邵氏	明	寧海泉	朝陽鄉邵江岸	邵一倫、為避倭寇之亂自寧海遷居朝陽鄉邵江岸。		其邵天一、邵元一兄弟均遷居此。	293	
32-4	邵氏	明	鄞泉西桃源鄉	城內郡廟前	邵遂，字均遂、号筠軒、自鄞西桃源遷居城內郡廟前。		邵香巷邵氏亦屬此派。邵遂為宋賀登在使觀文殿大學士邵仲、字希賢五世孫、自姚江來。	293	
33-1	金氏	明	山東	庄橋鎮金家村，北5.7km，西1km	金氏先祖明時從山東遷此。			184	
33-2	金氏	明	姚江	鄞韓嶺市	資政大夫兵部尚書金益皇，字漢卿。		追贈榮祿大夫少師諡忠襄金忠、字性庵為其三世孫。有老宅白雲派、新宅尚書派二支。有白雲先生金華、尚書金忠等人物。	294	

33-3	金氏 明	?	東郊鄉京駕橋村, 東 2.2km, 北 0.8km	明清時稱金家橋, 以始居金姓得名。			254
34-1	俞氏 永樂間	洋山巖	韓嶺鄉俞家壩壩	俞山壽偕弟俞山靜自洋山巖遷居韓嶺鄉俞家壩壩。	其裔有遷居杭州者。	俞勤為俞鼎之裔。	298
34-2	俞氏 宣德間	鄞縣梅墟鎮俞家	東吳鎮	俞勤、字孝五、自梅墟俞家遷東吳鎮。			298
34-3	俞氏 弘治間	台州	朝陽鄉張俞	教授文林郎山東濮州知州俞文震自台州遷居朝陽鄉張俞。	其裔有遷居定海六橫、紫薇壩及景嶺溪壩。	清光緒進士俞廷熙即其裔。	298
34-4	俞氏 嘉靖間	鎮海縣北	妙山鄉俞家村, 西北 17.9km, 西南 1.2km	俞姓世居, 因名。始祖系木工, 由鎮海北來此定居, 村中由明嘉靖間祖塋。		村傍小水閘, 又名小閘沿俞家。	152
34-5	俞氏 明	嵎峴	杖錫鄉大俞村兼連餘姚	俞積功偕弟俞積德自俞家壩遷居赤董鄉白岩頭村。			298
34-6	俞氏 明	鄞縣俞家壩	赤董鄉白岩頭村	俞繼江自梅嶺鄉俞家山遷居下宅俞家。			298
34-7	俞氏 明	鄞縣梅嶺鄉俞家山	下宅俞家				298
35-1	姜氏 明	餘姚縣	江東后塘	姜思廉字克讓, 号敬山, 為姜維五十五世孫, 自餘姚具遷居江東后塘。	自姜維至餘姚始紹夫間, 歷徙漢陽、淄川、嶧縣等處。	湖西青石橋姜氏亦屬此派。	299
35-2	姜氏 明	姚江姜家渡	梅墟鎮姜家壩	姜祥慶, 原名長, 字聯玉自姚江姜家渡來, 居梅墟鎮姜家壩。	分天地人三房, 各房裔孫分居有田野王、梅墟、五鄉嶼、寶嶼、橫溪河頭、吳龔載家等處。	遷具外有年浦、蘇州、杭州、鎮海、餘姚、慈溪及南洋檳榔嶼。姜慶祥為遷姚始紹夫十二世孫, 為蜀漢平襄侯姜維四十九世孫。	299
36-1	姚氏 洪武間	?	雲龍鎮姚家浦	知河南彰德府事孝賢才姚守鸞遷居雲龍鎮姚家浦, 唐梁固公崇之后。	其後裔分徙鄞西清道鄉、鄞東桃郎橋、鄞南高塘頭、慧灯寺、城中小梁街、及慈溪、嶧縣、奉化、紹興、餘姚等處。	旧時曾出三箇号姚千篋富戶, 并建有家庵。	299
36-2	姚氏 嘉靖間	鄞縣庄橋鎮姚家	西郊鄉姚家村, 西 4km, 西 3km	姚姓于明嘉靖年間徙庄橋姚家遷此。			95
36-3	姚氏 明	徽州	鄞城內月湖橋畔	姚毅, 号自虞, 自徽州服買來鄞, 遂家于城內月湖橋畔。	分和義門、梅園巷二支。		299
37	施氏 明	?	城內竹洲懸水池	施氏 (名失伝) 享二十四居城內竹洲懸水池。			298
38	柯氏 明末清初	?	城內柯家壩	柯氏先世于明末清初遷此, 原為石板小巷, 并多空地。			59
39	柴氏 明	?	下宅鄉西鑿橋	柴鑿成居下宅鄉西鑿橋。			300
40-1	柳氏 明初	鄞縣東郊鄉矮柳村	東郊鄉后盛村, 東南 3.8km, 南 2.2km	因地處盛家之北, 故名。主姓柳。據民國鄞縣通志, 柳氏先祖宋時自餘姚來, 分十一柱, 四柱分居后盛, 建村近 600 年。			258
40-2	柳氏 明	鄞縣矮柳	橫街頭東北	柳哲厚自鄞縣矮柳遷至橫街頭東北。			297
41-1	洪氏 明初	慈溪洪塘	茅山鄉紅葉	洪放, 字士求自慈溪洪塘遷居茅山鄉紅葉。	二十一世孫居鎮陳婆渡高塘橋。		298
41-2	洪氏 嘉靖間	慈溪洪塘	慈城鎮洪家村, 西北 14.2km, 南 1.9km	洪姓系明嘉靖間徙洪塘分遷來此。		村以姓氏得名, 因靠近官山, 亦稱官山洪家。	136
41-3	洪氏 嘉靖間	慈溪洪塘	半浦鄉小洪家村, 西北 1.7km, 東北 1.1km	村以姓氏得名, 洪姓于明嘉靖間由洪塘遷此。		為与慈城鎮洪家相區別, 取名小洪家。	225
41-4	洪氏 明末	餘姚縣大隱洪家	棗市鎮西洪村, 西北 9km, 1.9km	明末, 洪姓從餘姚大隱洪家遷來, 村在洪界之西, 故名西洪。			178
42	祝氏 明中葉	蘭溪	高橋鄉祝家壩	祝孝豐自蘭溪遷至高橋鄉祝家壩。	其裔有近半人口徙他村或他縣。	与西鄉紀方同宗。	299
43	紀氏 明	?	鄞縣山鄉清河橋	紀安樂			284
44-1	胡氏 成化間	安徽	城內聚奎巷蕭家橋	胡逸庵自安徽遷城內聚奎巷蕭家橋。	民國時衆議院議員胡翔青為其裔。		297

44-2	胡氏	嘉靖間	鄆西門外	咸祥鎮	胡西来自本鎮西門外遷居咸祥鎮。					
44-3	胡氏	明	新安	城內青石橋	胡世卿、号茂山自新安遷居城內青石橋。			清大饑少卿胡文学、順天府丞胡德邁為其后。	297	
44-4	胡氏	明	慈溪縣諸山	段塘鎮小漕	胡河自慈溪諸山遷居段塘小漕。				297	
44-5	胡氏	明	鎮海縣	望春山西北	胡氏(名字失伝)自鎮海遷居望春山西。				287	
44-6	胡氏	明	?	橫街鎮溪下村	胡兆祥居橫街鎮溪下村。				297	
45	茅氏	永樂間	山陰縣	東郊鄉下茅塘村, 東南約3km, 東南0.6km	始居茅姓、妣上茅中茅之東、旧有塘、故名。茅姓明永樂中自山陰來。				255	
46	莊(住)氏	洪武元年	福建漳州	鄆西長沙潭村	吉安府通判莊鑰游四明、見鄆西長沙潭村山明水秀、遂自福建漳州占籍于鄆。			太常卿莊元辰為其后、長沙潭村今淹于破口水庫、村民星散。	283	
47	鄆氏	天啓間	鎮海縣河頭鄉鄆家埕	9.3km, 西南2.9km	鄆氏先世于明天啓間自鎮海河頭鄉鄆家埕遷來。兄弟3人、長兄分派在裘市鄉、稱大宗郎家。			光緒慈溪縣志稱鄆。村民以鄆姓為主、因稱鄆家。	165	
48	凌氏	明	?	城內濠河頭	凌文龍居城內濠河頭。			清咸豐進士戶部福建司主事凌行均、咸豐進士工部都水司主事凌行堂、咸豐進士吏部文選司主事凌忠鎮為其后。	302	
49-1	唐氏	明中葉	鄆西天童庄五港橋	鄆山橋	唐広望自天童庄五港橋遷居鄆山橋。			相伝其父(名字失伝)曾置仇磨柴山、由梅墟板底唐遷天童庄。	302	
49-2	唐氏	明	剡縣	茅山鄉唐家漕	唐道隆自剡縣遷居茅山鄉唐家漕。			共裔分居象山、衢山、鎮海。	302	
50	夏氏	明	?	望春鄉望春山西南	夏氏(名字失伝)居望春鄉望春山西南。				300	
51-1	孫氏	永樂間	鄆西碧溪上孫磨	鄆西門口	奉直大夫孫圭永自碧溪上孫磨遷至鄆西門口。			其裔有遷鄆西湖后·芝山者。	283	
51-2	孫氏	弘治間	寧海縣樟樹下	鄆茅山孫家山	孫掣自寧海樟樹下遷鄆茅山孫家山。				283	
51-3	孫氏	万曆間	慈溪縣	城內道后	孫三海自慈溪遷至城內道后。				283	
51-4	孫氏	成化間	鄆西北渡	西郊鄉后孫村, 西北4.4km, 西北3.9km	孫姓世居、以姓氏得名、孫姓于明成化年間鄆西北渡遷此。			子孫繁衍、往南分建而村為前孫·中孫、此孫為后孫。中孫在清光緒間焚毀。	91	
51-5	孫氏	明	?	妙山鄉盆山村, 20.5km, 西北2.4km	村民孫姓為主、繁衍成村。			文照廟明天啓2年重建。	149	
51-6	孫氏	明	鄆西后孫埭	麗水鄉橫山后孫家	孫見山自后孫埭遷麗水鄉橫山后孫家。				283	
51-7	孫氏	明	鄆西北渡	4.4km, 西北1.3km	世居孫姓得名、孫氏先祖明代自鄆西北渡遷此。				85	
52-1	徐氏	元末明初	?	慈城鎮徐顏村, 西北11.3km, 東南4.6km	村建于元末明初。			1949年前為顏街和后堰頭徐家兩部分、50年代初才以姓氏命名為徐顏。	138	
52-2	徐氏	明初	鄆西前徐村	福明鄉牛墩漕村, 東3.9km, 西北2km	居戶徐姓、明初自鄆西前來此捕魚、后徐族成村。			村南有漕、形如牛軛、漕邊鎮居一徐姓漁民、孤如牛郎、故名。	262	
52-3	徐氏	明初	鄆西西湖	柴巷	甬上望族表稱西湖徐氏、詢之侍御后裔、知其初自吉水來鄆、視之曾孫十二人、明初為方氏牽累、播散避禍、其一派遷居柴巷、其一派居名道中遷居南鄆……。				20-660	

52-4	徐氏	成化間	慈溪県洋豊	集仕港鎮朱園村	徐孟齡自慈溪洋豊遷居集仕港朱園村。		為宋治平間由淳安遷慈溪孔塹徐德淵之后。清烏程教諭徐志芬、會稽訓導徐景賦為其后。	301	
52-5	徐氏	弘治正徳間	鄞県南甲村徐前村	西郊郷徐家漕村、西5.3km、西4.3km	徐姓于明弘治正徳間從南甲村徐前村遷此。		徐姓世居、村建于河漕兩側、呈南北狹長的秦形分布、故名。	91	
52-6	徐氏	嘉靖間	鄞県雲湖郷東塹村	19.3km、西1.6km	以姓名村、明嘉靖間、從雲湖郷東塹村遷此定居成村。			151	
52-7	徐氏	万曆間	慈溪県孔塹	大皎郷細嶺	徐聖修自慈溪孔塹遷居大皎郷細嶺。	其六世孫徐朝分居湖后。		301	
52-8	徐氏	万曆間	鄞県前徐	鍾公廟郷傅家埕	徐六二自前徐遷鍾公廟郷傅家埕。	其分支有大嵩派、寧鄞派、又有分居葉公山者。		301	
52-9	徐氏	明中葉	?	梅嶺郷芝山	徐貞遠徙居梅嶺郷芝山。			301	
52-10	徐氏	明末清初	鄞県洋市徐家	西郊郷馬脚橋村、西北3.8km、西北2.3km	系徐姓世居、于明末清初從洋市徐家遷此。		村后有座石橋、名馬脚橋、村以橋得名。	90	
52-11	徐氏	明	鄞県明樓村	江東警駕橋	徐智自明樓村遷居江東警駕橋。		相伝徐智為徐偃王九十一世孫。	300	
52-12	徐氏	明	鄞県茅山郷花園	橫溪陸広橋 (亦名祿広橋)	徐正一公自茅山郷花園遷居橫溪陸広橋 (亦名祿広橋)。	其裔有遷鄞家峙者。		300	
52-13	徐氏	明	鄞県雲龍鎮前徐	大皎郷杜塹	徐国忠自雲龍鎮前徐遷居大皎郷杜塹。		此派宗前徐、其下一派宗青州意杜塹徐氏。	301	
52-14	徐氏	明	鄞県大皎郷杜塹	南郷后徐	徐龍官自杜塹遷居南郷后徐。			301	
52-15	徐氏	明	鄞県洋市楊徐	庄橋鎮徐家村、北3km、西南1.3km	主姓徐、以姓得名、明時徐氏先祖從洋市 (楊徐)遷此。			188	
52-16	徐氏	明	鄞県洋市漕浦	洪塘鎮竺洋村、西北8km、南2km	現今村民主姓徐、明時自洋市漕浦遷此、有徐氏宗廟。			166	
52-17	徐氏	明	?	古林鎮竹橋頭	徐氏 (名字失伝) 遷居古林鎮竹橋頭。	其裔分居慈溪。		301	
53	桂氏	明代以前	慈溪県慈城鎮桂	洪塘鎮桂岷村、西北12.6km、西北3.1km	村始居桂岷黃三姓、以姓氏得名、亦稱桂家・岷家・黃家、抱伝桂姓于明代以前自慈城桂家遷此。		今村民主姓桂岷。岷姓經商外遷、黃姓絶后。	159	
54	烏氏	明末清初	河南穎川	北郊郷烏隘村、東北5km、北0.7km	以烏姓始居、故名。烏姓先世河南穎川望族、明末清初有兄弟弟逃荒來此、以燒窯為業、建成村落。		東烏・西烏于1951年拔建庄橋飛機場時廢。	205	
55-1	秦氏	万曆間	慈溪県	西郷段橋后	秦一槐自慈溪遷居西郷段橋后。	其裔分遷鄞高橋、翁家、西門外馬園、小校場及慈溪、杭州等处。		299	
55-2	秦氏	明	慈溪県	高橋郷秦家弄	秦忠、号大川自慈溪遷居高橋郷秦家弄。			299	
55-3	秦氏	明	鄞県西郊馬園	城南章者巷	秦芳、原名子賢、号少川、其先秦国才居西郊馬園、后遷居城南章者巷、為秦忠四世孫。	其裔分居后庫管、腰帶湖。		299	
56-1	翁氏	明末	湖州	白岳郷翁家橋	翁啓泰自湖州遷居白岳郷翁家橋。	其裔孫有遷居福建者。		300	
56-2	翁氏	崇禎間	鄞県青塾	白岳郷深溪	翁開元自青塾遷居白岳郷深溪。			300	
57-1	華氏	洪武間	寧海県	鄞東錢湖之東	華普光自寧海奉徽來鄞東錢湖之東。	后又遷至管江郷畢夾塹上新屋。		282	
57-2	華氏	万曆間	定海県	鄞城沙井巷	華明義、字魯卿、号渭南、初居定海、万曆間遷鄞城沙井巷。		列難檢府華夏為其后。	282	
57-3	華氏	万曆間	定海県	新寺后巷 (今称沙井巷)	鄉長者華公明義、字魯卿、号渭南、始居定海……公遷于鄞。			25-810	
58-1	袁氏	正統間	鄞県新芝亭	西郊郷后袁村、西3.7km、西2.4km	明正統年間分遷至此。當時建有前袁后袁兩村、袁心澄自本県邱隘宋家河遷五郷鎮莘橋。	前袁因子孫不多并相繼外遷、村住宅区)。	此袁氏始居鹽橋、元初徙宋家河、故為鹽橋袁氏之分支。	94	
58-2	袁氏	正徳間	鄞県邱隘宋家河	五郷鎮莘橋				299	

58-3	袁氏 明	鄞縣沙家山	莫枝鎮大堰頭	袁昌芝偕美芝、秀芝自本果沙家山遷至莫枝鎮大堰頭。	其裔分居里山、野貓洞、下底。	此派袁氏奉正獻公袁珩為自出祖、系正獻曾孫袁真之后、清光緒進士知江西廣昌果袁信芳為其裔。	299	
59-1	馬氏 明末	杭州富陽縣	震蛟鄉馬家	馬益相自富陽遷至鄞震蛟鄉馬家。	其八世孫馬賢哲·九世孫馬孝來遷岱山。		277	
59-2	馬氏 嘉靖間	?	朝陽鄉西馬	馬珥明遷至朝陽鄉西馬。			277	
59-3	馬氏 万曆間	鄞縣馬石灰橋	姜山馬家	馬氏(名失考)遷至姜山馬家。		與西馬·漕頭馬·后馬同宗。后馬民國時已不存。	277	
60	高氏 洪武間	紹興	徒門	高本善·高本達兄弟遷徒門。		高氏始租為宋武烈王高瑋、居汴、至元時高松元遷紹興。	302	
61	常氏 元末明初	安徽鳳陽縣	北效鄉常洪村 東北 6.9km, 東 1.8km	村以始居常洪阿姓得名。據傳、常洪阿姓先世于元末明初自安徽鳳陽縣逃荒來此。		常姓多居村南、稱常家。洪姓多住村北、稱洪家。清代中葉、洪姓房屋受火毀、其后裔陸續外遷。	206	
62-1	張氏 明初	鄞縣半浦鄉張陸村	乍浦鄉西后江沿村 西北 17.3km, 東北 1.6km	始居張姓、系半浦鄉張陸村張氏的分支、于明初遷此。		半浦鄉張陸村(西北 15.3km, 祝家西北 1.5km)	219	
62-2	張氏 永樂間	鄞縣雲龍	城內青石橋	張尹肅、字維庵、為遷鄞始祖張嶺十五世孫、文節公知白二十世孫。		明弘治舉人張泮、清光緒副貢出使英法意比四國隨員張美翊為其裔。	291	
62-3	張氏 弘治間	鄞縣月湖	陳婆渡鄉石路頭	張個、字同人、自月湖遷陳婆渡鄉石路頭。		為宋儒張載之后、載自宋淳熙年間從閩中遷鄞植湖、其裔自明正德間遷月湖。	292	
62-4	張氏 弘治正德間	福建	西郊鄉張家埭村 西 3.6km, 西南 3.2km	張姓于明弘治正德間從福建遷此。		璋阜也、建村處地勢較高、因張姓世居得名。	97	
62-5	張氏 正德初	鄞縣布政鄉張家潭	西郊鄉張家弄村 西南 3.4km, 西南 3.3km	張姓世居...張姓于明正德初從鄞縣布政鄉張家潭遷此。		張姓世居、因進村有奈弄、通河亦有奈弄而得名。	98	
62-6	張氏 嘉靖間	?	集仕港井亭張	張永秀遷居集仕港井亭張。	其裔遷樸社鄉里仁堂、又分遷上張漕。		292	
62-7	張氏 万曆間	?	朝陽鄉張俞	張沛潤、偕弟沛汜遷居朝陽鄉張俞。	其裔係分居本果瓦密橋、寧海梅林、餘姚白沙路。		293	
62-8	張氏 万曆間	慈溪縣	西門口郎官第	張洪順自慈溪遷居西門口郎官第。		清咸豐舉人官至陝西布政使張岳年、吏部右侍郎張家驥為其裔。	292	
62-9	張氏 万曆間	洛陽	鄞張家漕	張儉、字頌四自洛陽遷鄞張家漕。		東張与茅山清河橋張氏同宗。	293	
62-10	張氏 明中葉	?	樸社鄉里仁堂	張普清遷樸社鄉里仁堂。	其裔有遷居寧海缸密者。	一說此張氏來自井亭張、一說來自張家潭。	292	
62-11	張氏 明晚期	鎮海縣穿山鎮	乍浦鄉石埠頭村 西北 19.9km, 東南 0.4km	村居張姓、先祖于明晚期自穿山遷來。			216	
62-12	張氏 明晚期	鎮海穿山鎮	乍浦鄉張家埭村 西北 18.6km, 西南 1.9km	主姓張、以姓氏得名、張氏先祖茂六公子明晚期從穿山遷此。			219	
62-13	張氏 明末	奉化縣	鄞南門外→柳亭巷	張即紋、自奉化遷鄞、先居南門外、后遷柳亭巷。			292	
62-14	張氏 明末	鄞縣桃江	陳婆渡鄉張六四房	張君美自本果桃江至陳婆渡鄉張六四房。		下兆坑張氏亦奉張君美為祖、似屬同派。	292	
62-15	張氏 明末清初	鄞縣宅前張村	洪塘鎮張家村 西北 9.0km, 西 1.2km	村以姓氏得名、張姓于明末清初自宅前張村遷來。			163	
62-16	張氏 明末	?	古林張家葑	張氏(名字失傳)居古林張家葑。			293	

62-17	張氏 明末	?	福明鄉傅家村, 東 5.3km, 北 1.5km	明末始居張姓、原名張家。			264	
62-18	張氏 明	鄆東獲(獲) 埭	江東大埠頭	宋張文節公第二十一世孫善儒、号儒庵、自獲埭遷居江東大埠頭、增創門第、稱為甬東巨室、子曰鍾・鏞、鏞・鎮。				32-1059
62-19	張氏 明	鄆東雲龍碑	甬東大步頭	明文林郎四川開縣知縣張善儒、由雲龍碑遷甬東大步頭。	其裔分遷曠具、蘇州、定海。	善儒為文節公知白二十一世孫。	292	
62-20	張氏 明	鄆東板倉廟坑	小皎孔董張	明張伯英自本埠板倉廟坑遷居小皎孔董張。	其裔孫分居舟山。		293	
62-21	張氏 明	鄆東濠河(浩河)	靈橋君子宮竺家弄	張左喬四世孫張耀星世居浩河、八世孫張大觀由濠河遷居靈橋君子宮竺家弄。			293	
62-22	張氏 明	?	梅墟鎮	張宗先居梅墟鎮。	其六世孫分居鎮海城內。		292	
62-23	張氏 明	?	石碇鎮	張慶允遷居石碇鎮。			292	
62-24	張氏 明	?	橫街鎮下兆坑	明張君美居橫街鎮下兆坑。		與陳婆渡張六四房同祖。疑自桃江遷此。	293	
62-25	張氏 明	?	銅盆浦西張	張官山居銅盆浦西張。	其裔分居村東南港口及慈溪長石橋。		293	
62-26	張氏 明	?	西門外田陽	大理寺評事張道成、為文節公知白后、居西門外田陽。			292	
63-1	曹氏 洪武間	河南	慈城鎮大宗村亦稱湖下漕, 西北 11.6km, 東南 4.1km, 湖下漕, 西北 11.5km, 東南 4km。	居民以曹姓為主、在姜湖之下、原稱湖下曹、以后、曹演化為漕。據曹姓家譜載、明洪武間曹姓一進士(河南人)最初到今大宗村處定居、因無水灌田、于村北獅子山西側山麓內修建姜湖、蓄水灌田。	后子孫繁衍、一房遷半浦鄉、近她建洪八房、官二房兩村。	姜湖一說曹姓祖先有姜氏袁氏兩妻、建湖之地系用姜氏陪嫁田 100 畝修建、一說姜姓之田完給曹姓、后用此田建湖、故名。	138	
63-2	曹氏 洪武間	慈城鎮湖下漕	慈城鎮袁家畝村, 西北 13km, 東南 2.6km	湖下漕曹氏定居于明洪武年間。		住戶多姓袁、村南是一片田畝、故名袁家畝、村系于兵火后重建。又伝湖下漕曹姓祖先曾娶袁家畝人姜氏為妻。	136	
63-3	曹氏 永樂間	慈城鎮大宗村	慈城鎮洪八房村, 西北 11.8km, 東南 3.9km	大宗曹姓分居來此後發展成村、與大宗僅一河之隔、比大宗晚 40-50 年。		因厲曹姓洪字輩第八房、故名洪八房、1981 年地名普查時曾誤為河北房。	138	
63-4	曹氏 明	慈城鎮大宗村	慈城鎮官二房村, 西北 11.4km, 東南 4.3km	亦系大宗曹姓分支、因厲曹姓光字輩第二房、故稱光二房、因当地音近字成官二房。	距大宗約 0.2km。		138	
63-5	曹氏 明末清初	紹興	裘市鎮田心村, 西北 11.4km, 北偏西 1.8km	明末清初曹姓由紹興遷此定居、因村落建在田畝中、俗稱田心曹、簡稱田心。			175	
64-1	畢氏 明末	鄆東五鄉土橋	橫街	至明末畢氏后裔畢雲自土橋遷居橫街、又為一支。			284	
64-2	畢氏 明	鄆東五鄉土橋	潘火鄉橫石橋九畢村	畢匡明贊于裴(仇)氏、遂自五鄉土橋遷居潘火鄉橫石橋九畢村。	至明末畢氏后裔畢雲自土橋遷居橫街、又為一支。	畢匡明為宋時提舉畢氏(名失伝)朴齊十世孫、朴齊南渡時扈蹕來鄆、自台州遷居土橋。或并謂朴齊系畢錫之子。	284	
64-3	畢氏 ?	台州	潘火鄉土橋	畢氏先祖為河南行一者、官刺史、却任后住下台郡、至行十一者、名鏞、遷鄆。	其裔行二十一者又遷鍾公廟畢家埭。		284	
65-1	章氏 明初	餘姚畢章家	乍浦鄉章尹村, 西北 17.9km, 北 1km	據章氏家譜載、章氏祖上于明初從餘姚章家遷此、已延統 20 余世。尹氏其時遷入、來她不詳。				218
65-2	章氏 弘治間	鄆東西鄉高橋	鍾公廟鄉章家	章氏(名字失伝)		一說此派章氏來自聖南。而聖南亦高橋分支、故与高橋同派。	304	

65-3	章氏 明	?	鄆城內白衣寺巷	勳授舊武校尉章字化、字君奇、亦為章及之后、遷居城內白衣寺巷。	其裔分居杭州及新昌班竹。	清咸豐狀元國子監祭酒章鑾、光緒進士知吉林長春府事章紹涑為其裔。	304	
65-4	章氏 ?	象山	鄆西高橋	章閔春、行義一、為唐康州刺史章及之后、居鄆西高橋。相傳章及自福建泉州南安遷浦城、其5世孫章基自福州浦城遷象山、至11世章伯遷鄆西高橋、分為旧宅、高橋、馬浦、西山四派。	馬浦派又析出黃泥壩派、高橋派又分田陽派、王家墳派。故以高橋、田陽、王家墳派為本文、馬浦、西山派為旁支。	其裔分遷西門外貼水橋南、聖南、虹橋頭、北門外柏樹橋、瞻岐東壩、王家壩、西門外新河頭、望春山、傅家埠、天童三塘頭、鄆城隍前、三法腳及象山等處。有紹事、中章鑾、參政章鏡、知府章沢、僉事章藥等人物。	303	
66-1	許氏 明	金華	鄆東寧鋒百梁橋	許映觀遷居寧鋒百梁橋。	其第三房分居鄆江光溪許家橋。		283	
66-2	許氏 明	?	鄆東上陳·陶公山·西許村	有瑾玗瑞兄弟三人、本姓鄭、避仇遷鄆、玗居陶公山、瑞居西許村、均改姓為許、而其名則冠以鄭字、故稱許鄭玗、許鄭瑞、唯長子瑾未改姓、居于上陳。		明時侍御郭振培、清孝子郭永麟、乾隆翰林院檢討郭景兆、知湖北通城縣郭彥博、文字郭伝心、貴州補用知縣郭伝璞、知山東武城縣郭慶新、兵部武選司郭慶恒為其裔。	283	
67-1	郭氏 明初	河南汝寧府光州息泉	鄆東城內二十四間	寧波衛指揮百戶郭得自河南汝寧府光州息泉遷城內二十四間。			302	
67-2	郭氏 明	鄆東橫街鎮白象橋	鄆東古林鎮郭埠	郭秀璉、郭宗盛自白象橋遷居古林鎮郭埠。	分十四房、二十一房二派。前者奉秀璉為始祖、后者奉宗盛為始祖。		302	
68-1	陳氏 明初	青州	鄆東后弄	陳氏其先自青州徙鄆之后弄村、又自后弄遷郡城之月湖。	城內月湖	西湖陳氏	20-665	
68-2	陳氏 洪武13年	鄆東古林鎮西洋港	鄆東集仕港鎮樓下陳	陳居敬、字簡庵、為元、慶元台溫路督運總領陳芮、字大章次子、自古林西洋港遷居集仕港鎮樓下陳。	其裔分居城內武鎮坊、月湖大巷弄及杭州直隸順天府、河間府與河南省。	湖広按察使副司陳魏、清知府陳鴻漸、同知陳僅為其裔。	289	
68-3	陳氏 永樂間	鄆東茅山	鄆東陳婆渡月浦	陳周、字從聖、永樂三年(1405)除闕縣主簿、未幾致仕歸、偶過月浦、愛其地遂自茅山遷居陳婆渡月浦。		為宋明州刺史莊堉公陳矜十六世孫。走馬塘、姜山后壯、城內看基、江東曾龍禮陳氏皆同宗。	289	
68-4	陳氏 永樂間	山東鄆城縣、金陵	鄆東城西大卿橋之南	陳待詔遠、字中復、靜誠先生遇之弟也...過四明愛俗尚淳厚、遂家焉。		工部尚書陳公恭(永樂三年舉人)、字孟起、靜誠先生遇之子也、居金陵從其叔遠、徙家于鄆。	30-966	
68-5	陳氏 永樂間	上虞縣	鄆東城西門口	刑部員外郎陳曠、字彥驥、自上虞遷居西門口。		郎官第西社壇側陳氏亦屬此派。清征奉孝廉方正陳勵、光緒乙亥解元陳照鏡、雲南安寧州知州陳儀鎮為其裔。	290	
68-6	陳氏 明中期	象山縣	裘市鎮陳家村, 西北10.8km, 西1.3km	明朝中期、陳某從象山逃荒來此、繁衍成村、名陳家。		有條小河、通至陳家止、形成河斗嘴、橫在村前、故名橫河斗陳家。	176	
68-7	陳氏 明中葉	?	集仕港鎮后陳	陳雅壽遷居集仕港鎮后陳。		始祖陳傳清、生三子、長子雅福為前陳祖、次子雅祿為中陳祖、三子雅壽為后陳祖。	290	
68-8	陳氏 弘治間	?	鄆東古林鎮張家鈞	陳氏行十一居古林張家鈞。			288	

68-9	陳氏	弘治間	鄆城西	鄆泉城內烟嶼青石橋	成化弘治間陳誠、行文二、自城西遷居城內烟嶼青石橋。		清光緒舉人出使英法義比四國學生陳星庚為其旨。	290	
68-10	陳氏	嘉靖間	慈溪縣東城沿	乍浦鄉東陳家村, 西北17.2km, 東北1.2km	陳氏祖上明嘉靖間自慈溪東城沿分居于此。		俗稱双頂山陳家。村以主姓名、為与位于其西北之陳家同名、1981年更名東陳家。	218	
68-11	陳氏	嘉靖間	鄆泉五鄉懷石道地	鄆泉樸社鄉下王	陳仰山自本泉五鄉懷石道地遷居鄆泉樸社鄉下王。			290	
68-12	陳氏	嘉靖間	鄆城西門外楊陳巷	段塘鎮秦家財村, 寧波西南5.2km, 西1.6km	世居陳姓, 旧村旁有一木橋, 稱陳家橋, 以橋得名... 陳氏明嘉靖間自寧波西門外楊陳巷遷于此。			85	
68-13	陳氏	嘉靖間	?	西郊鄉周江岸村, 西2.6km, 西南1.7km	現村民以陳姓為主、明嘉靖間遷此。		原住周姓、故名。	95	
68-14	陳氏	嘉靖間	?	乍浦鄉西陳家村, 西北18.7km, 西北1.2km	据考陳氏約為明嘉靖年間在此定居。			217	
68-15	陳氏	嘉靖間	?	半浦鄉江口村, 西北12km, 東南1.3km	居戶有陳曹兩姓、陳姓于明嘉靖間遷此。			228	
68-16	陳氏	隆慶間	鄆泉姜山	七里塾后陳	陳鎔自姜山遷居城東七里塾后陳。			288	
68-17	陳氏	隆慶間	餘姚縣陳家殿	龍觀鄉	陳氏(名失伝)自餘姚陳家殿遷居龍觀鄉。	其裔孫陳克鈞遷居城內湖西小倉。		290	
68-18	陳氏	崇禎間	鄆泉姜山	天董鄉三塘頭	陳奕貫自姜山遷居天董鄉三塘頭。	其七世陳家濂分居天董下陳家。		288	
68-19	陳氏	崇禎間	鄆泉茅山	福明鄉前陳村, 東5.2km, 北0.4km	始居陳姓、明崇禎年間自鄆泉茅山來此定居。			260	
68-20	陳氏	崇禎間	鄆泉茅山	福明鄉后陳村, 東5.2km, 北0.8km	始居陳姓、明崇禎年間自鄆泉茅山來此定居。		為区別村南陳家、而稱后陳。	264	
68-21	陳氏	明末	鄆泉姜山新墻弄	古林鎮陳鈔堂	陳宗愛自姜山新墻弄遷居古林陳鈔堂。			288	
68-22	陳氏	明末	鄆城北庄賽堰	寧鋒鄉樹橋頭	陳氏(名無考)自城北庄賽堰遷居寧鋒鄉樹橋頭。			290	
68-23	陳氏	明末	?	鄆高橋楊家漕	陳維一遷居鄆高橋楊家漕。	其裔分居杭州蔣村、餘姚。	隣近陳氏共四族、唯此族有譜、別三族。对岸陳、矮窩陳、普濟陳是否与同宗無從考查。	290	
68-24	陳氏	明	上虞泉	西門外方伯第	垂中大夫陝西苑馬寺正卿陳均得、自上虞遷居西門外方伯第。		此派遷鄆自出租為陳仲良、世居上虞石壇橋。明成化進士山東右布政使陳振、清光緒舉人知雲南昭通府陳廉勳為此派。	290	
68-25	陳氏	明	吳興路頭	樸社北渡	行千十四者、自吳興路頭遷居樸社北渡。		清大理寺丞陳紫芝為其旨。	290	
68-26	陳氏	明	鎮海泉水孔潭	東吳市小白	陳大恩自鎮海水孔潭遷居東吳小白。			290	
68-27	陳氏	明	鄆泉集仕港	集仕港鎮湖里陳	鄆司馬陳楷自本泉集仕港遷居本鎮湖里陳。		此派陳氏先自莆田來、實与梅壩、東吳同派。	289	
68-28	陳氏	明	鄆泉姜山	雲湖鄉陳家灣村, 西北21km, 西南0.7km	明時從鄆泉姜山遷來。		住戶多姓陳、故名。陳家与金沙壩陳家同族。	142	
68-29	陳氏	明	鄆泉姜山鎮	北郊鄉老陳家庄村, 東北7.9km, 東3.6km	陳氏先世元時自河南潁川遷居鄆泉姜山。明時又移居來此。	后子孫繁衍、又析居村東、称新陳家庄、遂改陳家庄為老陳家庄。	光緒鎮海縣志称陳家庄、属西管鄉四都四因。	206	
69-30	陳氏	明	鄆泉走馬塘	石碇壩頭	庠生陳宗鍊、字仲元、自走馬塘遷至石碇壩頭。			289	
69-31	陳氏	明	鄆泉走馬塘	鄆城倉基街	歷任海門、宝應縣知縣、勅授文林郎陳樂、字節之、号梅軒、自走馬塘遷鄆城倉基街。		有文介公陳禾、字士陳曦、大常陳樂、御史陳濂(始建第于倉基)、御史陳良謨、太僕卿陳沂等人物。	289	
68-32	陳氏	明	鄆泉橫徑	鍾公廟鄉慧灯村	陳銓自本泉橫徑遷居鍾公廟鄉慧灯村。	有分居江東大校場永安橋下者。		289	

68-33	陳氏明	鄞縣后隆溪東	雲洲鄉竹絲嵐	陳正中自后隆溪東遷居雲洲鄉竹絲嵐。			289	
68-34	陳氏明	鄞縣后隆	城南門外后洋河	本縣博士孝郡、(陳)實譚、字士明、自后隆遷居城南門外后洋河。			289	
68-35	陳氏明	鄞縣西樓廈陳	西門口大脚橋塊	陳南橋自鄞西樓廈陳遷居西門口大脚橋塊。	其裔有分居江北旱新馬路旁者。		290	
68-36	陳氏明	鄞城內大沙泥街 李士橋	高橋鄉秀水漕	陳細良自城內大沙泥街李士橋遷居高橋鄉秀水漕。	其裔有遷居餘姚天元市者。		290	
68-37	陳氏明	?	慈城鎮湖塘下村, 西北 13km, 南3.1km	拋祠堂光緒六年牌位、建祠已280余年、建村在明 萬曆二十八年(1600)、村民陳姓為主。		該村北面曾有花輿湖塘、村 在湖塘南面下邊、故名湖塘下。 該村系以開湖填墾建房而成。	137	
68-38	陳氏明	?	寧鋒鄉上周	明正德十二年(1517)進士、四川提刑按察使僉事 陳璧居寧鋒鄉上周。			290	
68-39	陳氏明	?	陳段(即姜山陳家团)	福州知府陳國宗、后隱居于獅子山之陽、名其地曰、 陳段(即姜山陳家团)。為走馬塘陳矜之后。	其裔有分居城內監橋頭、紫金巷 及奉化、象山等處。		289	
68-40	陳氏明	?	東吳鄉平谿	陳仲七為宋文介公陳禾裔孫、遷居東吳鄉平谿。			289	
68-41	陳氏明	?	邱隘姚村	陳本資居邱隘姚村。			289	
68-42	陳氏明	?	寧鋒樹橋	陳汝周遷居寧鋒樹橋。	有分居餘姚南鄉者。		288	
68-43	陳氏明	?	陳婆渡陳家	陳子華居陳婆渡陳家。		稱上朝陳氏、因潮水漲時、南 北朝于陳氏、故名。	290	
69-1	陸氏元末明初	餘姚周港(今屬 慈溪市)	慈城鎮陸家村, 西北 11.3km, 東南4.1km	元末明初有祖籍安徽之陸德先者、從餘姚周港遷此 定居、遂名陸家。			138	
69-2	陸氏明初	杭州	費市鎮居陸村, 北 10.9km, 北1.4km	明初、有陸姓從杭州來此定居、又有居姓、呂姓遷 來居住、形成村落、故名居呂陸。		后呂姓只剩1戶、遂簡稱居陸。	194	16- 473 甬上 族望 表
69-3	陸氏明初	山陰縣	月湖之西畔	西湖陸氏、明初自山陰遷鄞、宋時已有放翁之后遷 鄞。	西湖之支后至而大。刑部尚書諡 康僖(瑜)、廣東布政使銜、山 東布政使參議……。			
69-4	陸氏明中葉	?	城內竹林巷	陸岳、為唐宣公陸贄之后、遷居城內竹林巷。		西門外陸氏亦屬此派。清同治 翰林甘肅學政陸廷獻為其后。	291	
69-5	陸氏崇禎間	慈溪縣	福明鄉陸家村, 東北 5.5km, 北3.1km	村系陸姓世居、故名。陸姓于明崇禎間自慈溪遷來。			260	
69-6	陸氏明	餘姚縣陸埠	段塘鎮前高車村, 西南 3.3km, 北1.3km	居戶多陸季而姓、陸姓于明代自餘姚陸埠遷此。		因地勢較高、旧建有車水壩、 処前高車之西、故名。	86	
69-7	陸氏明	餘姚縣龍山	洪塘鎮廟后陸家村, 西北 10.3km, 西2.8km	村始居陸姓、陸姓于明時自餘姚龍山遷此。			164	
69-8	陸氏明	慈溪縣陸董公橋	下忘鄉高橋頭	陸迪明自慈溪陸董公橋來、居下忘鄉高橋頭。	其五世孫陸示顯遷象山西周。		291	
69-9	陸氏明	鄞縣下忘鄉虹麓	韓嶺鄉陸家壩	陸汝理自虹麓遷居韓嶺鄉陸家壩。			291	
70-1	黃氏成化間	湖北漢口	西郊鄉黃家灣村, 西北 3.1km, 西1.6km	拋仁黃姓于明成化間、從湖北漢口遷此。		村在河的東側、河漕彎曲處。	94	
70-2	黃氏正德間	鄞縣東南張黃	城內獅子街	正德進士、中大夫南京光祿寺卿黃履、自鄞東南張 黃遷居城內獅子街、為黃晟二十三世孫。	其裔有分居餘姚及本縣下忘者。		303	
70-3	黃氏天啓以前	慈溪縣田央黃	妙山鄉黃家村, 西北 18.1km, 西1.1km	以姓各村、黃姓先祖從慈溪田央黃遷來。		天啓慈溪縣志已載有黃家。	147	

70-4	黃氏 明	鄞縣石橋	家井巷	家井巷黃氏、唐明州刺史晟之后。		家井巷黃氏。御史改湖州僉事潤玉，四川按察副使隆，訓導溥，岳州知府巽。	27-896
70-5	黃氏 明	鄞縣石橋	姜村大港河沿	黃懋隆・同子黃金宇自本県石橋遷居姜村大港河沿。		黃懋隆為黃晟二十九世孫。	303
70-6	黃氏 ?	鄞縣東鄉張黃	県治西南三板橋	唐刺史晟之后、自鄞塘鄉之張黃徙居于五台寺左…第左期三板橋河。			17-550
71-1	葉氏 嘉靖中	処州松陽県茅山	大皎鄉細嶺村	葉国四自処州松陽県茅山遷至大皎鄉細嶺村。			280
71-2	葉氏 明	鄞縣隱岩	茅山紅葉	定海県金塘葉万七之裔葉宗存自隱岩遷至茅山紅葉。	分中葉・大池葉・麻車葉・老屋葉四波、其裔分居定海狗子・杭州・慈溪。	知福建章平県葉德芳為其后。	280
72-1	馮氏 明中葉	慈溪県	石碇馮家后倉	慈溪人馮臣遷至石碇馮家后倉。		清光緒舉人馮丙然為其后。	281
72-2	馮氏 正徳間	慈溪県馮家	西郊鄉張家埕、西3.6km、西南3km	馮姓于明正徳年間從慈溪馮家遷入。			97
72-3	馮氏 万曆間	慈溪県城	裘市鎮橫山頭村、西北11.9km、西北2.1km	宋末元初、有馮姓者為避戰亂從山東南來慈城落戸。約300年后、又由慈城分支遷此、繁衍成村。			175
72-4	馮氏 天啓以前	慈溪県馮家	妙山鄉馮家庄村、西北18.9km、西1km	村以姓氏得名、由慈城馮家分此。		天啓慈溪縣志載有馮家庄。与八字橋馮家・庄橋馮家同族。	147
72-5	馮氏 崇禎間	慈溪県城	乍浦鄉東馮家村、西北16.3km、東2.3km	馮氏祖上于明崇禎年間由慈城遷此定居。		以主姓得名、為与位鄉南之馮家同名、1981年更名為東馮家。	219
72-6	馮氏 崇禎間	慈溪県城	乍浦鄉南馮家村、西北16.7km、南1.5km	馮氏系慈城馮氏分支、明末崇禎年間与東馮家同時遷此鄉定居。		主姓馮、為与位于東郷之馮家同名、1981年更名為南馮家。	222
72-7	馮氏 明末	慈溪県城	費市鎮蘇馮村、北10km、西1km	明末有慈城馮姓遷此、后又有蘇姓繼為義子、因名蘇馮。			195
72-8	馮氏 明	慈溪県	望春郷	馮禪、自慈溪遷至望春郷。			281
72-9	馮氏 明	慈溪県	集仕港鎮	馮又京、字允吉為庠生馮鏗字鼎成之后、自慈溪遷至集仕港鎮。			281
72-10	馮氏 明	慈溪県馮家	庄橋鎮馮家村、北402km、西南1.5km	世居馮姓、以姓氏得名、明時、馮氏先祖自慈溪馮家遷此。			188
73	湯氏 明	鄞縣大嵐山	樸社郷新豐橋	湯雲節遷至樸社郷新豐橋。			283
74	屠氏 明	鄞縣城内祝家都花園	寧峰鋒宝峰庄	屠高偕兄高乾自城内祝家都花園遷居寧峰鋒宝峰庄。		此派与桃花渡屠氏同宗。	304
75	景氏 明	餘姚県景家橋	姜山景港岸	景忠楹自餘姚景家橋遷居姜山景港岸。			305
76	舒氏 嘉靖3年	奉化県広平	朝陽郷舒周	舒誠意自奉化広平遷居朝陽舒周。			305
77-1	傅氏 洪武間	鄞縣五郷硯	乍浦郷傅家村、西北15.9km、東南2.3km	原住蔣姓、傅氏祖上在明洪武年間、自鄞縣五郷硯遷來。			222
77-2	傅氏 明	鄞縣五郷硯	鍾公廟郷傅家埕	明傅次仁自本県五郷硯遷居鍾公廟郷傅家埕。			305
78-1	董氏 洪武間	慈溪県	梅園郷建塿→城内月湖西岸	郷貢進士官秘書郎董全、号鑑水、始由慈溪遷梅園郷建塿、旋遷城内月湖西岸。	有分居二十四間・西門外千柱屋者。	清通政副使董樵・礼部右侍郎董華、光緒翰林官山東勸業道董祥熊為其后。	305
78-2	董氏 明	?	樟村董家	童易威居樟村董家。			305
79	鄒氏 明	餘姚県練山	鄒鄒溪	鄒溪…以姓譜名其居地、故称鄒溪。	其后人有居塘頭街及高塘頭者、居高塘頭者又分支、分別遷柴橋・鎮海海塘寺・居塘頭街者又分居韓鎮市。	鄒溪為遷姚始祖鄒桂(后改名鄒植)之裔、奉宋名臣鄒浩為其出祖。	287

80-1	楊氏	洪武13年	鄞縣城西門外楊家水畝居石硯鎮	石硯鎮	楊自行、字德明，庠生自西門外楊家水畝居石硯鎮。	西楊氏分鏡碧登三房，即湖西澄川（守隰）、楊家牌樓下碧川（守澗）、西楊鏡川（守陳）。	此派亦系西楊之后裔。	286		
80-2	楊氏	正德元年	鄞縣西楊	天一街太陽殿下	楊守隰、字維平、号澄川、自西楊遷居天一街太陽殿下。			286		
80-3	楊氏	明末	？	段塘鎮前高車村，西南3.3km，北1.3km	始居楊姓、掘丘明末遷此。		因地勢較高、旧建有車水盤、処前高車之東、故名。	86		
80-4	楊氏	明末清初	鄞縣西郊鄉前六畝（村）	西郊鄉后六畝村，西北3.7km，西2.1km	楊姓于明末清初年間、從前六畝分徙、亦用六畝地建村、故名。并建有祠堂。			93		
80-5	楊氏	明	鄞縣樸社	韓嶺陳楊陳家磨	楊粟自樸社遷居韓嶺陳楊陳家磨。	清時其裔楊賢能分居陳楊茶園、為一支。	清同治殉難忠烈楊儒林為其居。	286		
80-6	楊氏	明	鄞縣東鄉青山	鄞樸社東楊·西楊。	楊仁爽、字德明、号松塘居士、為始蘇遷鄞始祖楊厚三世孫、自本縣東鄉青山遷居鄞縣樸社東楊·西楊。其四世楊顯居楊家塊、即為東楊、楊頌居樟樹下、即為西楊。	東楊西楊繁衍甚廣、其后裔孫各支分居有湖后楊宦人橋、湖后山、周家橋（即中楊）、黃燕山、光東鄉上楊、下楊、下水埂、上水埂、前顧灘、謝家塊、碧湖夾塘、梅山、楊家埕、橫張橋、城南門桂芳橋、港口、楊家水畝、梧裡橋、橫張橋下河、城內日湖采蓮橋、月湖青石橋、定海泉、月湖三板橋、城內豐照橋、城北海道司后等處。	有礼部尚書諡文懿楊守陳、工部尚書諡康簡楊守隨、吏部尚書楊守趾、廣西布政使楊守隅、刑部侍郎楊茂元、四川按察使楊茂仁、知廣南府楊美瑛、詩人楊承蠟、殉難推官楊文璋（四忠及英烈）、高塘州牧楊德周、布衣楊秉紱等人物。	286		
80-7	楊氏	？	？	鏡川之陽	楊氏世家在鏡川之陽、小江湖之陰、麟鳳洲之上、諺稱楊家轆...	宗族繁盛、鼎分為三、有東楊·西楊·中楊之稱、東楊·中楊在宋元時、世以高聲武斷鄉曲、獨西楊之祖新五朝奉、諱書樂善、務仁人長者之行...	輾、者方言即州也。	36-1147		
80-8	楊氏	明	鄞縣東楊西楊	望春山西北庄橋鎮樓家村，北7.5km，西南2km	楊氏（名字失伝）自東楊西楊遷居望春山西北。			286		
81-1	樓氏	明	象山縣	庄橋鎮樓家村，北7.5km，西南2km	樓氏先祖明時從象山遷此。			185		
81-2	樓氏	明	奉化縣雪竇	江東灰街	樓延、字介眉、為樓郁十三世孫、自奉化雪竇遷居江東灰街。			305		
81-3	樓氏	明	？	茅山鄉西樓·麗水鄉東樓	樓祖馨、行德一、茅山鄉西樓、為西樓祖、樓祖清行德二、居麗水鄉東樓、為東樓祖、均為宋太師樓昇七世孫、永康始祖樓興業十三世孫。	其裔有分居心家埭及象山陳跳樓者。	別號甬東樓氏宗譜、遷西樓始祖名忻、字申甫、号福仙、為知府樓瀾曾孫、樓郁十三世孫。元時始遷鄞南林石寺、是為西樓、至明樓守璋費居楊岸、是為東樓。而說有異、存之待考。	305		
82-1	董氏	洪武中	慈溪縣二十三都	鄞城芳嘉橋東	董伯庄、字達夫、自慈溪二十三都遷居鄞城芳嘉橋東。	其裔孫分遷有順天·湖廣·黃巖·杭州·湖北·硤石·定海·鎮江·桐鄉·寧海·北京·南京·奉化·濟寧·福建·蘇州·乍浦·廣州·山西大同·及本縣天童等處。	此派董氏有御史改命董事琳·右都御史董光宏·戶部主事董德傳·兄弟殉難監軍董德敏·詩人董劍鏞等人物。	304		

82-2	董氏	景泰間	鄆城中泥橋巷西南白塔庵	回龍高塘頭	董廣，字本恭，白坡中泥橋巷西南白塔庵米，居回龍高塘頭。	其裔孫分遷有景南門外·白沙·望春及景外周巷·上虞·金塘木輿·定海亭港等處。	清光緒進士知江西建昌景董浦為其居。	304	
83-1	虞氏	万曆間	鄆縣邵家渡樓家匯頭	寧波西北11.8km, 裘市西北2km, 裘市鎮農家(村)	明万曆間虞姓從邵家渡樓家匯頭分遷到此，以姓氏名村。			176	
83-2	虞氏	明	鄆縣柴山	展蛟鄉前農家埕	虞國式自本縣柴山遷居展蛟鄉前農家埕。			306	
84	裘氏	弘治間	鄆縣裘市鎮	裘市鎮輒立村，西北10.2km, 北0.6km	拋慈溪裘氏宗譜載，明弘治年間，從裘市分支而來。		因村在裘市田畝里，稱畝里，后別寫作畝立。	177	
85	鄒氏	明	餘姚景棟山	鄆鄒溪	鄒溪自餘姚景棟山來鄆，以姓諱名其居地，故稱鄒溪。	其后人有居塘頭街及高塘頭者，居高塘頭者又分三文，分別遷梁橋·鎮海海塘寺·居塘頭街者又分居輞嶺市。	鄆溪為遷姚始祖鄒桂(后改名鄒植)之裔，奉宋名臣鄒浩為其出祖。	287	
86	練氏	明	福建武平景祥洞鄉	龍觀鄉龍溪	練光溪，光積服買來鄆，見龍溪山水之勝，遂自福建武平景祥洞鄉遷至龍觀鄉龍溪。	練光溪·光積為宋練豪十八世孫。上練以兆溪為始祖，下練以兆植為始祖。	297		
87-1	聞氏	明	襄陽	梅園鄉牌頭	聞楚宜自襄陽遷梅園鄉牌頭。			298	
87-2	聞氏	明	鄆縣响岩	展蛟鄉聞江岸	聞方七自响岩遷至展蛟鄉聞江岸。	有分居于樟村及宜興、慈溪、定海者。	聞江岸即在石馬塘，此派或與前派同。	298	
88-1	趙氏	嘉靖間	甘肅省天水縣	灣頭鄉下江村，北3.5km, 東1.2km	明嘉靖間，甘肅天水縣趙姓移居來此，原名下趙家。			213	
88-2	趙氏	嘉靖間	甘肅省天水縣	灣頭鄉上趙家村，北3.4km, 東0.9km	明嘉靖間，趙姓由甘肅天水縣趙姓遷此。			213	
88-3	趙氏	明	台州磐石衛	鄆東吳鄉	趙家豫自台州磐石衛遷至鄆東吳鄉。		趙家豫，為宋太祖二十五世孫。	297	
88-4	趙氏	明	鄆縣五鄉堡	橫山	趙德照自本縣五鄉堡遷居橫山。			297	
89-1	錢氏	成化2年	鄆縣錢家山	葉公山	錢昱明自錢家山遷居葉公山。	其裔分居奉化松豐、杭州塩橋及本縣橫溪。	錢昱明為吳越王錢鏐十六世孫。	301	
89-2	錢氏	正德間	鄆縣錢家山	茅山鄉錢家	錢有嗣自錢家山遷居茅山鄉錢家。			302	
89-3	錢氏	明末清初	鄆縣江東漕漕漕	西郊鄉錢家迎村，西北2.3km, 西北0.8km	原系錢姓世居，錢姓明末清初，從江東漕漕遷此。			94	
89-4	錢氏	明	紹興	望春鄉龍觀橋錢家	錢允山自紹興遷居望春鄉龍觀橋錢家。			302	
89-5	錢氏	明	?	橫溪錢王	錢阜泳居橫溪錢王。		鄆縣通志輿地志，今只一戶，而吳姓為主，吳姓于清嘉慶間，從黃巖下梁遷入。	302	
89-6	錢氏	明	?	龍觀鄉錢家	錢賢琰，字葉峰，居龍觀鄉錢家。			302	
89-7	錢氏	明	?	梅塘鎮錢家	錢氏(名字失伝)居梅塘鎮錢家。			302	
90	劉氏	明	鎮海縣劉杜	鄆城孝開街	劉亨乾自鎮海劉杜至鄆城孝開街。	民國初有分居江北岸生宝橋下及碑橋下者。	該族劉氏原籍福建，其祖名劉仁·劉亨乾為其二十五世孫。	283	
91-1	厲氏	明	鄆縣布政鄉厲港	上下厲	厲尚忠·厲忠厚·厲尚悅兄弟遷至上下厲。		其裔有遷至象山東溪及五港大厲者。	280	
91-2	厲氏	明	?	草村小皎村	厲可忠遷至草村小皎村。			280	
92	樂氏	嘉靖間	鎮海縣小港樂家	西郊鄉竺江岸村，西2.7km, 西南2.4km	樂姓于明嘉靖年間從鎮海小港樂家遷入。		村建于河旁，對河原有大竺家塘(今千家塘)，因名竺江岸...已無竺姓。	97	
93	滕氏	明	山東曲阜	石碭后倉滕家	博學隱士滕普益自山東曲阜遷居石碭后倉滕家。			307	
94-1	蔡氏	明	鄆縣東潘火橋	銅盆浦芳田畝	蔡寅自景東潘火橋遷居銅盆浦芳田畝。			306	
94-2	蔡氏	明	?	東吳少白	大理寺卿蔡錫居東吳少白。		蔡寅為蔡楷十世孫。	307	

94-3	蔡氏 明末	餘姚縣城	鄞縣城古壘坊	蔡南洲、世為鄞人、明末寄迹餘姚城、已而遷居鄞城古壘坊（百歲坊）。	至四世故居毀于火、遷高遠橋、再遷竹林巷。	潘火橋·蔡郎橋諸支蔡氏初皆一本、后以家業被火、無可聯絡、遂別自為宗。清同治進士福建松溪縣蔡叙功為其后。	307		15-449
95-1	蔣氏 明初	諸暨縣	五顯廟右	蔣翰林第在五顯廟右、翰林蔣蓼崖先生為宋紹事中期蔣之後、明初自諸暨遷鄞。					
95-2	蔣氏 洪武間	奉化縣	乍浦鄉蔣家村即蔣家山村、西北18.8km、西北1km	據蔣家宗譜載、蔣氏先祖明洪武年間從奉化徙于岬山（今稱蔣家山）南麓。				217	
95-3	蔣氏 明	奉化縣孔峙	麗水鄉大橋頭	蔣元五自奉化孔峙遷至麗水鄉大橋頭。			306		
95-4	蔣氏 明	鄞縣蔣家浦	樸社里港蔣	蔣梨江自本縣蔣家浦遷居樸社里港蔣。		其為塩倉蔣氏之裔。	306		
95-5	蔣氏 明	?	居咸祥鎮鹽山	蔣氏（名字失伝）居咸祥鎮鹽山。			306		
96-1	鄭氏 洪武初	?	東錢湖殷家灣	鄭以玖居東錢湖殷家灣、為朱嘉祐進士明州錄事參軍鄭驥十世孫。		隸自杭州遷鄞、遷浙始祖為唐咸通進士歷官右僕射鎮東節度使鄭政、自河南來、清殉難拳人鄭聖颺為其后。	296		
96-2	鄭氏 宣德間	奉化縣洞橋白水	姜山前鄭家庄	鄭伯大、偕弟伯盛、伯川自奉化洞橋白水遷居姜山前鄭家庄。	其裔孫分居東錢湖畔、姜山、蔡郎橋、甲村南杜村。		296		
96-3	鄭氏 明中期	慈溪縣城	乍浦鄉蔣家村、西北19.1km、西北1.5km	據伝、明中期慈城鄭氏兄弟來此攻蔬、發迹后在此定居。后村以鄭姓為主、故名。			216		
96-4	鄭氏 明	慈溪縣半浦	咸祥鎮	鄭運自慈溪遷居咸祥鎮。			296		
96-5	鄭氏 明	?	下車橋	鄭松七居下車橋。			296		
96-6	鄭氏 明	?	邱隘合掌橋	鄭邦隆居邱隘合掌橋。	其裔分居餘姚大隱、北崙小港。		296		
97	黎氏 明	?	麗水鄉黎山后	黎氏（名字未詳）居麗水鄉黎山后。			307		
98-1	盧氏 嘉靖間	定海縣	靈橋君子營	盧家錦自定海遷居靈橋君子營			281		
98-2	盧氏 明万曆間	定海縣金塘	君子宮北街中段	盧氏始居定海金塘、自稱万曆間、鄞峰公遷鄞、果世隴裕、至七世孫寅仲富甲鄉里、即青崖之父也。以姓氏得名、從餘姚遷來、天啓慈溪縣志已載有盧家。		盧氏亦屬此派、清時中書盧址、教諭盧錦、光祿寺署正盧杰為其后。	281		27-888
98-3	盧氏 天啓以前	餘姚縣	妙山鄉蘆家村、西北19km、西0.9km			盧氏抱絲樓、盧青崖中書藏書之所、青崖名址、字丹陞。	147		
99	穆氏 嘉靖間	紹興穆家灣	灣頭鄉后穆村、北3km、東0.8km	穆姓于明嘉靖間從紹興穆家灣遷來。		因村南馬家村有穆姓、為便于區別、前者名前穆村、該村即名后穆村。	213		
100	鮑氏 成化間	鄞縣三橋	陳婆渡鮑家田埕	鮑昭元自三橋遷居陳婆渡鮑家田埕。	其裔孫分遷定橋·虞家·橫溪·陳家塾·西魯·城內和義門及杭州·奉化·舟山·蕭山·象山等處。		306		
101-1	嚴氏 天啓間	鄞縣翁岩	西郊鄉五江口村、西北4.5km、西北3.2km	嚴姓世居、祖籍福建、于明朝天啓間從鄞縣翁岩遷此。				92	
101-2	嚴氏 明	鄞縣桃江	鍾公廟嚴家滙頭	嚴洁羽自桃江遷居鍾公廟嚴家滙頭。	清初四世孫嚴愷遷潘火鄉秦家畝。		284		
101-3	嚴氏 明	?	橫街頭東頭	嚴氏（名失伝）居橫街頭東頭。			284		
101-4	嚴氏 明	?	布政鄉宋嚴王	嚴氏（名失伝）居布政鄉宋嚴王。	一支徙居古林。		284		

102-1	謝氏 明初	慈溪県青林郷	抗沙巷 (前營守備署)	謝氏先代居慈溪青林郷、伯昌始遷郡城、生升(永業已丑進士)官御史、四伧庠生璩、生九皋、九皋生一爵、礼部儒士、以子三寶貴、贈通議大夫。				16-498
102-2	謝氏 正徳中	餘姚県第四門	瞻岐郷	謝建業自餘姚第四門遷居瞻岐郷。			305	
102-3	謝氏 明	餘姚県	天童郷鳳下溪	謝達一自餘姚遷居天童郷鳳下溪。	其裔有分遷慈溪瞻岐、大塘者。		305	
102-4	謝氏 明	慈溪県青林渡	月湖	謝仲華、其妻田氏二十、矢志守節、隣有富豪欲改其志、乃潛携幼子遷居月湖。		鎮明嶺南郭謝御史第亦屬此派。進士監察御史謝永升、殉難太僕少卿謝子宣、清雲南提學僉事謝子道、知山東蓬萊縣謝為憲為其裔。	305	
103	鍾氏 明	鄞県鍾家庫	潘火郷楊家漕	鍾安道自鍾家庫遷居潘火郷楊家漕。	其裔分居象山及江北岸、江東壳席橋、团橋。		298	
104	韓氏 明	河南	望春郷藕欄橋	文林郎韓師堂自河南徙居望春郷藕欄橋。		清孝子韓恣永為其裔。	304	
105	戴氏 嘉靖間	鄞県東錢湖	城東新河頭林語巷 (即戴家弄)	鄞東始祖戴隆之十六世孫戴道江、字文江、由東錢湖遷居城東新河頭林語巷 (即戴家弄)。		戴道江為江東戴氏一世祖。城內紫微街戴氏亦屬此派。	307	
106	顏氏 元末明初	?	慈城鎮徐顔村、西北11.3km, 東南4.6km	村建于元末明初。		1949年前為顔街和后堰頭徐家向部分、50年代初才以姓三北 (餘姚北・慈溪北・鎮海北)	138	
107	魏氏 明中期	三北	裘市鎮魏家村、西北10.8km, 北偏西0.8km	明朝中期、一魏姓三北人徙魏家遷此安家、繁衍成村、村以姓名。			176	
108	羅氏 明	餘姚県羅江	東郊郷羅家村、東南4.7km, 東南2.6km	以主姓得名、羅氏自餘姚羅江遷此、至今15代。			256	
109-1	蘇氏 明	慈溪県	高橋蘇家	蘇細自慈溪遷至高橋蘇家。		其祖京一、唐大中十二年(858)遷慈溪。	284	
109-2	蘇氏 明	慈溪県	段塘鎮蘇家村、西南4.3km, 西北0.8km	拋民国鄞県通志載、蘇氏先祖、明時自慈溪遷此。		含江家翁家兩家小地名、以世居蘇姓得名。	86	
110-1	顧氏 明末	崑山県	城内三角地	明末兵馬指揮使顧連堂、魯王監國時自崑山遷居城内三角地。	后世遷徙無常、散居城廂内外者不只是一處。	其先遷居鄞五代禪寺左、近宅旁有井、稱顧家井。	300	
110-2	顧氏 明末	紹興白塔洋	下応郷六村	明末顧念陸自紹興白塔洋遷居下応郷六村。	分孟・仲・季三大房。其中孟房后裔徙居城内北大路。		300	
110-3	顧氏 明	紹興	東郊郷外河沿村、東南4.5km, 東南2.6km	顧姓明代自紹興遷此。			256	
110-4	顧氏 明	?	望春郷東北	顧氏(名字失伝)居望春郷東北。			300	
111-1	龔氏 明末	鄞県吳龔	望春山西首	龔世山自本県吳龔遷居望春山西首。		拋蕪湖龔氏宗譜、世山為滕家洋龔氏十八世孫。	303	
111-2	龔氏 明	鄞県吳龔	洞橋郷野猫洞港	龔紹良自本県吳龔遷居洞橋郷野猫洞港。			302	
112	蕭氏 明	鄞県城紫微街后庫宮房	道陳壘	蕭執中因贅于陳壘陳氏、遂自鄞城紫微街后庫宮房遷居道陳壘。			303	

表2、明代寧波沿海部（鎮海縣）における遷住

番号	姓	移住時期	出身地	移住先	始祖	再移住	備考	頁
1-1	干氏	明代	外地	汶溪西魯	明代由外地遷入。	清康熙間七世祖一支徙寧海下河。		187
1-2	干氏	明中期	本県崇邱郷高河塘（江南衛前西）	大輿鎮	明中葉由崇邱郷高河塘遷入。	分支有新輿（鎮）干氏。	大輿干氏	187
2-1	方氏	明末	河南	清湖方家宅基	明末由河南遷入。		清湖方家宅基方氏	184
2-2	方氏	正徳年間	福建蒲城	鄞隘林頭	明正徳間由閩之蒲城遷入。	分支有震浦方載（震浦鎮）、大榭王榭（大榭島）。	鄞隘林頭方氏	184
2-3	方氏	万曆間	靈緒鳳浦	定海相墅	其一支于明万曆間遷定海相墅方、繁衍成族。		靖康元年為鄞県令、因貧不能帰、后倍子軫能靈緒鳳浦湖、子孫四衍、繁衍成族。	184
3-1	王氏	正統年間	福建省	楓林鎮王家港	明正統時由福建遷入。		楓林王家港王氏	180
3-2	王氏	崇禎年間	福建省莆田県	城西新添廟橋	約崇禎間由福建莆田遷入。		新添廟橋王氏	180
3-3	王氏	明末	福建省	石塘下	明末由福建遷入。		石塘下王氏	180
3-4	王氏	嘉靖年間	奉化県	三山海口	明嘉靖間由奉化遷入。		三山海口王氏	180
3-5	王氏	明後期	三北（慈谿県龍山鎮西）	駱陀堰頭	明后期從三北邱王遷入。		駱陀堰頭王氏	179
3-6	王氏	明末	三北（?）	庄市鎮	明末由三北遷入。		庄市田野王王氏	179
3-7	毛氏	明初	寧波燕子漕	震浦関毛陳	明初由寧波燕子漕遷入。		震浦関毛陳毛氏	186
3-8	王氏	正徳年間	鄞江橋	鄞隘石馬磨	明正徳間由鄞江橋遷入。		鄞隘石馬磨王氏	180
3-9	王氏	崇禎年間	鄞西望春橋	上横磨	明崇禎間由鄞西望春橋遷入。		上横磨王氏	180
4-1	史氏	洪武年間	東錢湖史氏	大石門	明洪武年間亦由東錢湖史家遷入。		大石門史氏	184
4-2	史氏	明初	寧波張斌橋	楊木村	明初從寧波張斌橋遷入。		楊木村史氏	184
5	石氏	明時	浙江省新昌県	紫石郷里河	明初自新昌遷入。	分支有白峰小門。	紫石郷里河石氏	185
6	向氏	明初	?	城区	明始祖向國楨承明初從征有功世襲定海衛指揮使、畧内十八衛之一、嗣裔定居于此。		城区向氏。	187
7-1	朱氏	成化年間	南京	莊市朱家岸	明成化間由南京遷入。		莊市朱家岸朱氏	182
7-2	朱氏	明末	安徽省歙県	崇邱郷小港方前	先世隨李自成起義遷入。		小港方前朱氏	182
7-3	朱氏	明中期	顔家橋朱家	長石鎮黃楊	明中期由顔家橋朱家遷入。		長石黃楊朱氏	182
7-4	朱氏	明末	?	張鑑硯	明末隱居是村。		張鑑硯朱氏、明宗室一系。	182
7-5	朱氏	明末	?	霞浦鎮朱家塘	明末居此。		霞浦朱家塘朱氏、為明宗室支系。	182
8	何氏	成化年間	慈谿県文亨	汶溪鎮廟灣	明成化間由文亨遷入。		汶溪廟灣何氏	185
9-1	余氏	明中葉	餘姚県道路頭余家	灘浦鎮	明中期由餘姚県道路頭余家遷此。		灘浦余姚余氏	185
9-2	余氏	明末	奉化県	城西賀駕橋	明末由奉化遷入。		賀駕橋余氏	185
10-1	吳氏	成化年間	福建	駱陀下河（時屬慈谿県德門郷鄞水村）	明成化間自福建遷入。		駱陀下河吳氏	182
10-2	吳氏	洪武年間	?	河頭郷吳家磨	明洪武間遷入。		河頭吳家磨吳氏	182
11	宋氏	万曆年間	?	定居于汶溪	祖先宋曾為明諫議大夫、明万曆年間定居于此。		汶溪宋氏、上宋氏。	187
12	杜氏	万曆年間	?	河頭前杜后杜	明万曆間自鄞県管江遷入。		河頭前杜・后杜杜氏	186
13-1	李氏	明末	寧波	柴橋新李・老李家	明末從寧波遷入。	分支遷白峰中嶺脚等地。	柴橋新李老李氏	181
13-2	李氏	明末	?	李輟橋	先世明末諳此。		李輟橋新老李氏	181
14-1	恣氏	万曆年間	定海県	河頭師古磨（県北橫溪東）	明万曆間由定海遷入。		河頭師古磨恣氏	186

14-2	宓氏	崇禎年間	鄆県下応	湾塘応鄭周	明崇禎間由鄆県下応遷入。		憩橋宓氏	186
15-1	汪氏	明代	安徽	郭巨鎮	源出安徽、先祖明初從征有功、世襲衛指揮使、 宅注安徽、襲職郭巨所、子孫遂定居。		郭巨嗣徽堂汪氏	185
15-2	汪氏	洪武年間	?	邑東管郷清水浦	始祖汪思顔、明洪武間從戎鎮海、遂世居邑東 管郷清水浦。	有分支半路汪等。	臨江汪氏、別称大宗汪。	185
16-1	沈氏	嘉靖年間	河南省	河頭杜郭	明嘉靖年間、朝臣顔姓兄弟遷補遷于此、改沈姓。 始祖沈正原、明崇禎年間遷入、為梅山最早落 戶之姓氏。		河頭杜郭沈氏	182
16-2	沈氏	崇禎年間	福建	梅山			梅山沈氏	182
16-3	沈氏	明清間	三北沈師橋	灘浦、河東、西河、貴圃、麥 登、龍舌、庄市沈葛劉屠、臨 江、三山慈峰	北宋末避兵災遷沈師橋定居、后裔陸續徙往山南。 分支有灘浦……。		鎮北一帶沈姓源多出三北沈師 橋、祖籍江西婺源。	182
17	沃氏	成化年間	泰邱洪農(瑞巖北)・崇邱姚 墅農(即下邵)	柴橋	裔孫沃頓、明成化進士、始徙柴橋築宅定居。	分支有下竹園、烏岩下、崔西 農、大榭、三山双獅、白峰山 防、小門、北農、郭巨双農。	熙寧年間、沃元璠致富族興、 其沃營崇寧三年進士。	185
18-1	周氏	嘉靖年間	山東省青州	柴橋鎮泗橋	明嘉靖間由山東青州遷入。	分支有柴橋上周、下周、西周 ・霞浦中塘、神馬等處。	柴橋泗橋周氏。相伝始祖本姓 劉、參加反元起義失敗、有兄 弟三人逃此隱匿、改姓周。唯 柴石周調、明時復復姓劉。	181
18-2	周氏	正統年間	奉化県西嶋尚橋	柴橋施陸	明正統年間由奉化県西嶋尚橋遷入。	分支有大榭下廠、周家墩、大 平、長塘、長墩等處。	柴橋施陸周氏	181
18-3	周氏	明初	舟山	周家楼下	明初由舟山遷入。		周家楼下周氏	181
18-4	周氏	明弘治年 間	定海	長石鎮周河潭	明弘治間由定海遷入。		長石周河潭周氏	181
18-5	周氏	正統年間	鄆県茅山	三山上周農	明正統年間由鄆県茅山遷入。		三山上周農周氏	181
18-6	周氏	洪武年間	?	河頭下周	明洪武年間遷入。		河頭下周氏	181
18-7	周氏	明時	?	駱駝贊大門	約在明時遷入。		駱駝贊大門周氏	181
19-1	邵氏	明後期	范陽(河北涿県)→臨安→餘 姚	鎮海城內・莊市勤勇老邵	約明后期、有分支遷鎮海城內和老邵。	分支有鎮海城內、老邵、更有 新邵、小邵家。	莊市勤勇老邵氏、宋邵雍之後、 北宋末避金兵乱、遷于臨安、 遷定居餘姚。	184
19-2	邵氏	成化年間	山東省	泉城孝開坊邵衙弄	始祖邵瑜明成化間官游占籍定海、世居泉城孝 開坊。		泉城邵衙弄邵氏	184
19-3	邵氏	洪武年間	湖南省	西経堂	明洪武年間由湖南遷入。		西経堂邵氏	184
19-4	邱氏	嘉靖年間	三北(鎮・慈溪密湖北)	高塘邱李王	明嘉靖年間由三北遷入。		高塘邱李王邱氏	185
19-5	邱氏	万曆崇禎 年間	邱隘鎮	新農(鎮)千丈塘・袋底・隆 順	均系明万曆・崇禎間由邱隘遷入。		新農千丈塘邱氏、袋底邱氏、 隆順邱氏(皆同宗)。	185
19-6	邵氏	正徳年間	寧波湖西	三山	明正徳間由寧波湖西遷入。		三山邵氏	184
20	范氏	洪武年間	平江府	泉之沙頭	洪武初、始祖名其善自平江遷泉之沙頭、子孫 繁衍后即以姓名地称俞范。		俞范范氏(鎮海泉城西地圖1)	187
21-1	金氏	正統間	江蘇省太倉県	塔峙	明正統年間由江蘇太倉遷入。		塔峙金氏	184
21-2	金氏	正徳嘉靖 年間	鄆県韓嶺(東錢湖東)	崇邱鄉徐家洋→城関童李衙弄	明正徳・嘉靖間遷崇邱徐家洋、旋遷此。	分支有牌門金家、霞浦金家、 白隴金家等。	城関童李衙弄金氏	184
22	齊氏	永樂間	台州天台県	算山	明永樂間由天台県遷入。	分支有莊市長河塘、楓林金家 斗等處。	算山齊氏	187
23-1	俞氏	明洪武間	山東省青州府	鄆隘俞王	在明洪武年間由山東省青州府遷入。	分支有堂五房俞、江南農俞、 塔峙何俞、峙頭(鎮海泉東端) 外俞。	鄆隘俞王俞氏	183

23-2	俞氏 明	福建	江南市	明時由福建遷入。	分支有双牌俞家。	江南石橋俞氏	183
23-3	俞氏 明 方曆年間	鄞 湖里	霞浦鎮水俞	明 方曆間由鄞 湖里遷入。		霞浦水俞俞氏	183
23-4	俞氏 明 中葉	鄞 西黃古林俞家	駱駝俞家坂	明 中葉自鄞 西黃古林俞家遷入。		駱駝俞家坂俞氏	183
24-1	姚氏 明 初	安徽 省鳳陽 阜重華堂	郭巨鎮	先祖 采明 初 郭巨千戶所 城時 指揮之一。	後裔 分遷 江南 沿江、江北 灣塘、鄞 阜五鄉 等處。	郭巨姚氏	185
24-2	姚氏 成化年間	餘姚 縣	汶溪鎮	明 成化年間 由餘姚 遷 慈城。再遷 此。		汶溪姚氏	185
25-1	洪氏 嘉靖年間	慈溪 漢塘 (洪塘)	周家壑	明 嘉靖年間 第 10 世 洪鑑 遷 周家壑 立基。		周家壑周氏	186
25-2	洪氏 洪武年間	洪塘鎮	長石廟	明 洪武年間 由洪塘 遷 此。	分支 有 廟洪、顏 家橋 洪、斗底 洪、正 二房 洪。迨 遷 橋 洪、又 有 支 系 新 洪 家。	長石廟洪氏	186
26-1	郎氏 明 初	?	貴州 鎮	明 初 遷 入。		貴州郎氏·新郎氏	187
26-2	郎氏 成化年間	老郎	西經堂	明 成化間 由老郎 遷 入。		西經堂郎氏	187
27	施氏 嘉靖年間	山東 省	鎮海 城 西門 外	明 嘉靖間 由山東 遷 居 阜 城 西門 外。	其 后 有 兄 弟 備 遷 此、分 前 后 兩 房	前施·后施施氏	186
28-1	胡氏 明 末	湖南 省	借邑 港	係 明 開國 元 勳 胡 大海 後裔、明 末 由 湖南 遷 此。	分支 有 灣 頭 胡 氏、雁 宕 廟 胡 氏、秦 胡 胡 氏 等。	借邑港胡氏	180
28-2	胡氏 嘉靖年間	福建 龍城	因橋 寺 后 胡	明 嘉靖年 間 遷 侯 難。		因橋寺后胡胡氏	180
28-3	胡氏 明 中期	餘姚 縣	長石 河 娘 橋	明 中 期 自 餘 姚 遷 入。		長石河娘橋胡氏	180
28-4	胡氏 崇禎年間	餘姚 縣 柏山 (0)	呂鑑	明 崇禎間 由 餘姚 柏山 遷 入。	分支 有 鄞 隘 后 漕、霞 浦 朱 塘 胡 等。	呂鑑橋胡氏	180
28-5	胡氏 明 初	奉化 皋 梅 龍 港	霞浦 河 西 村 → 河 東 村·水 俞	始 祖 在 明 初 奉 化 梅 龍 港 徙 居 河 西 村、后 次 子 遷 河 東、三 子 遷 水 俞。	分支 有 下 洋、大 榭、華 峙、峙 頭 (鎮 海 阜 東 端)。	霞浦大胡氏	180
29-1	柴氏 明 方 曆 年 間	三北 (鎮、慈 溪 縣) 裘 市 柴 家	臨江 柴 家 (大 柴、小 柴)	明 方 曆 間 支 派 徙 此 定 居。		臨江柴家柴氏	187
29-2	柴氏 明 方 曆 年 間	寧波	霞浦 鎮 朱 塘	明 方 曆 間 由 寧波 遷 入。		霞浦朱塘柴氏	187
30-1	倪氏 明 末	福建	莊市 蛟 河 倪	明 末 自 福 建 遷 入。		莊市蛟河倪氏	186
30-2	倪氏 明 方 曆 年 間	上倪	楓林 下 倪 橋	明 方 曆 間 由 上倪 遷 入。		楓林下倪橋倪氏	186
31-1	夏氏 明 正 德 年 間	紹興	江南 鎮 夏 度 樓 夏 家	明 正 德 間 由 紹興 遷 入。		江南夏度樓夏氏	185
31-2	夏氏 明 天 順 間	慈溪	憩橋	元 時 一 支 遷 入 憩 橋、為 明 天 順 朝 大 理 寺 夏 時 正 故 里。		憩橋夏氏、祖籍 龍西、后 定 居 慈溪。	185
31-3	夏氏 明 末	?	莊市 鎮 里 夏·外 夏	明 末 遷 入。		莊市鎮里夏·外夏氏	185
32-1	孫氏 洪武年間	奉化 阜	臨江 張 陳 傅	明 洪武間 由 奉化 遷 入。		臨江張陳傅孫氏	183
32-2	孫氏 萬曆年間	慈溪 阜 丈 亭	清水 橋	明 方 曆 間 由 慈溪 丈 亭 遷 入。	後 裔 徙 居 大 榭 較 多、孫 家·孫 家 敬、下 殿 孫 家 等。	清水橋孫氏	183
32-3	孫氏 明 末	新路 樓	大輿 鎮 綠 化	明 末 由 新 路 樓 遷 入。		大輿綠化孫氏	183
34-1	徐氏 洪武年間	洋墅 徐 宗	鄞隘 徐 洋	有 明 洪 武 年 間 遷 入 鄞 隘 徐 洋。		鄞隘徐洋徐氏	181
34-2	徐氏 永樂四年	洋墅 徐 宗	小港 (鎮) 徐 洋	明 永 樂 4 年 遷 入 小 港 徐 洋。	今 分 前 徐 后 徐。	小港徐洋徐氏	181
35	秦氏 萬曆年間	汶溪 秦 家 磨	汶溪 秦 家 磨	明 方 曆 年 間 由 慈 城 遷 入。		汶溪秦家磨秦氏	187
36	翁氏 萬曆年間	慈溪 汎 山 頭 翁	河頭 翁 家 地	明 方 曆 間 由 慈溪 汎 山 頭 翁 家 遷 入。		河頭翁家地翁氏	186
37	華氏 明 初	定海 施 行 山	駱駝 前 華·后 華·華 家·華 唐 華 家 等	明 初 遷 此。		駱駝前華華氏	187

38	馬氏	嘉靖年間	河南	塔峙西壩	明嘉靖間由河南遷入。	分支有霞浦馬氏、白峰官莊馬氏。	后施馬氏	186
39-1	袁氏	明末	慈溪吳陸家埠	覺渡	明末由慈溪陸家埠遷入。	分支有莊市万嘉橋。	覺渡袁氏	185
39-2	袁氏	明崇禎年間	鄞縣東錢湖頭	江南鎮	明崇禎間由東錢湖頭袁家遷入。		江南前袁（江南鎮）后袁氏	185
39-3	袁氏	明	鄞城西郊鄉	陳家浦・柴橋・洞橋	后隨從宋高宗到明州、定居鄞城西郊、明時有分支遷陳家浦・柴橋・洞橋。		陳家浦・柴橋・洞橋陳氏	
40-1	張氏	明初	河北清河縣百忍堂張宗	郭巨鎮	均為明初築郭巨城時偕來的指揮使后裔。	今子姓分布郭巨全鎮。	郭巨北門、百忍堂、南門張氏。	180
40-2	張氏	明	河北清河縣百忍堂張宗	貴門西港頭張氏	明時由河北清河縣百忍堂張宗遷入。	今分系有双廟、王家橋張家等。	貴門西洋張氏	180
40-3	張氏	成化年間	定海縣舟山	望浪山下→郭陸	明成化年間由舟山遷入、始居望浪山下。		郭陸后洋張氏	180
40-4	張氏	明晚期	鄞縣姜山	張盤堰	明晚期由姜山遷入。		張盤堰張氏	180
40-5	張氏	明清	寧波西門外張埠	高塘上張家埠、下張家埠、塔峙丁山下、和鶴橋、霞浦朱塘、柴橋樓下張	寧波西門外張埠張氏、子孫于明清兩代陸續遷鎮、定居成族。	后又派衍、山下張氏、魁斗橋張氏。	寧波西門外張埠張氏	180
41	康氏	万曆年間	塔峙（大興鎮南地區1）東樓	新樓鎮康家山	明万曆年間由塔峙東樓遷入。		新樓康家山康氏	188
42-1	陳氏	永樂年間	安徽省定遠縣	城關陳衙弄	祖陳鑑為定海節百戶、遂定居衍族、并以名地。		城關陳衙弄陳氏。	180
42-2	陳氏	明	南京洪氏牌樓	梅堰	始祖陳舜德官布政使、自南京徙梅堰。	明萬曆以後、其三子復遷于餘范（鎮海縣城西地區1）施周。	餘范施周陳氏。	180
42-3	陳氏	明末	福建	莊市蛟河	明末自福建遷入。		莊市蛟河陳氏	180
42-4	陳氏	明	三北（鎮、慈溪縣）掌起橋（鎮、慈溪縣）陳宗	紋溪山下・河頭	派出三北掌起橋陳宗有紋溪山下陳・河頭陳、均在明時遷入。		紋溪山下陳氏、河頭陳氏。	180
42-5	陳氏	崇禎年間	庄賽堰（景城東北地區2）陳家	下部陳家灣	明崇禎間由陳家遷入。		下部陳家灣陳氏	180
42-6	陳氏	明清	鄞縣姜山（鎮、鄞縣南）陳氏大本堂・德聲堂・雨鈔堂	灘浦陳家弄・曲滙塘・李輟橋・沙河頭・駱駝大東陳・荷花池頭・大小河角頭陳・田舍陳・河頭大小陳底堰・田舍陳・莊市東頭陳・中官路陳・灣塘三合前陳・石塘下・江南陳三十四房・小港刻磨・大浦陳陸陳・高塘沿海陳・半浦陳・陸嘉溪・塔峙楊樓・霞浦陳華鋪・閔毛陳・紫石陳打鼓樓・上陽黃老樓・峙頭（鎮、海東東端）升螺・三山慈東・梅山下岸等陳家	源多出姜山陳氏大本堂・德聲堂・雨鈔堂、明清兩代遷入、旺族分支派四衍、有灘浦陳家弄、曲滙塘・李輟橋……。		姜山陳氏大本堂・德聲堂・雨鈔堂陳氏	180
43	陸氏	萬曆年間	寧波西門外	塔峙	明万曆間由寧波西門外遷入。	分支有三山陸氏。	塔峙陸氏	183
44	曹氏	成化年間	慈溪縣獅子山	西經堂	明成化年間由慈溪獅子山遷入。		西經堂曹氏	184
45-1	許氏	成化年間	慈溪縣	莘塍	明成化年間由慈溪遷入。		莘塍許氏	186
45-2	許氏	崇禎年間	鄞江橋	高塘（鎮）	明崇禎間由鄞江橋遷入。		高塘許氏	186
46-1	黃氏	明初	?	郭巨（鎮）	郭巨黃家先祖系明初築郭巨千戶所城指揮之一、定居成族。	後亂時曾分支避難于寧波西門外与紫石大溟村。	郭巨黃氏。	183
46-2	黃氏	永樂年間	寧波厦	紫石鄉大溟	明永樂年間由寧波江厦遷入。		紫石大溟黃氏	183
49	傅氏	明中期	?	大市堰	明中葉遷入。	分支有江南山下村、万嘉橋。	大市堰傅氏	184
50	馮氏	万曆年間	奉化泉溪口鎮	楓林馮家斗	明万曆間由奉化溪口遷入。		楓林馮家斗馮氏	186
51	湯氏	嘉靖年間	金塘	臨江鎮			臨江前湯・后湯氏	187

52	焦氏	洪武年間	安徽省	高塘河頭	明洪武年間由安徽遷入。	后分支有后焦家	高塘河頭焦氏	187
53	董氏	明晚期	鄞縣迎江橋	霞浦下洋	約明晚期由鄞縣迎江橋遷入。		霞浦下洋上·下董氏。	186
54	賀氏	明代	紹興鑑湖	前宋→石柱頭	源多出大輿老賀，先世于明代從紹興鑑湖遷入，先居前宋、樂梁后遷居石柱頭，立宗老賀。	賀氏子孫四衍，在高塘、新碑兩地分支有二十余如、塔峙城東賀家、霞浦林大中賀、三眼碑賀、新賀家、駱駝賀家陳賀、峙頭（鎮海果東端）上宅賀家等。	石柱頭賀氏	182
55	項氏	明初	溫州平陽縣	柴橋后所	始祖項信祿，原籍溫州平陽縣。明初遷居后所。	明初遷居后所。	柴橋后所項氏	188
56-1	楊氏	弘治年間	山東省濟南	楊沙溪	明弘治年間由山東濟南遷入。		楊沙溪上·下楊氏。	183
56-2	楊氏	成化年間	慈溪小閩爺殿	河頭楊王	明成化年間由慈溪小閩爺殿遷此。		河頭楊王楊氏	183
56-3	楊氏	成化年間	陝西→徽州→慈溪東北門外	汶溪鎮石臼磨	成化年間一支系遷于此。		汶溪石臼磨楊氏。漢太尉驃騎將軍楊震之後裔。自陝西遷徽州、復遷慈城北門外、	183
56-4	楊氏	明洪武年間	鄞西	下部	明洪武年間由鄞西遷入。		下部老屋·新楊屋楊氏	183
56-5	楊氏	明初	?	駱駝楊家塾橋	明初定居立村。		駱駝楊家塾橋楊氏	183
57	董氏	洪武間	鄞五鄉輿董家	下部渡頭	自鄞五鄉輿董家遷入。		下部渡頭董氏	
58	虞氏	洪武24年	三北（慈谿龍山鎮西）伏龍山→金塘	扎馬	扎馬始祖·虞睿才因事隱居金塘，明洪武24年遷居扎馬。	分支有鄞隘虞家畦·全興房·新路盤沙石·新輿洪頭浦·大和·高橋·五戶頭·高塘算山·霞浦水頭·柴橋虞家·大榭張西魯·樂石朱家漕·白峰官莊等。	鄞隘扎馬虞氏和白石廟眼虞家同宗、扎馬虞氏世譜序載、源出三北伏龍山虞宗、稱唐虞世南裔孫。	183
59	詹氏	永樂年間	安徽省	莘峰	明永樂年間由安徽省遷入。		莘峰詹氏	187
60	駱氏	明末	奉化果西塢	大輿鎮	明末亦由奉化西塢遷入。		大輿駱氏	185
61-1	蔡氏	明万曆年間	福建建陽	駱駝半練橋	祖籍福建建陽、明万曆間遷入。	分支有寬渡（漚浦南）蔡家。	駱駝半練橋蔡氏	185
61-2	蔡氏	明前	三北（慈谿龍山鎮西）靈湖東蔡	漚浦鎮	明前由三北靈湖東蔡遷入。	倭亂時曾分支有鄞西鄉与四川。	漚浦蔡氏	185
62-1	趙氏	明初	安徽省	郭巨	原籍安徽、其先世為明初築郭巨千戶所城指揮之一。		郭巨趙氏	182
62-2	趙氏	明初	?	臨江水璩王·中官路·中一	均在明初定居于此。	分支有長山橋。	臨江水璩王趙氏·中官路下趙氏·中一趙氏。	183
63-1	劉氏	明永樂8年	白沙	果城稍弓弄	明永樂8年、11世孫劉昂，由白沙遷果城稍弓弄（城中）	分支有駱駝鎮劉杜、湯家池、井頭劉、河頭新堰頭、后施、海甸、愛登、双廟、沈葛劉厚、渡塘、城關、江南山下等劉家。	貴州橋劉氏（世彩堂劉氏の1）	181
63-2	劉氏	明永樂3年(1405)	?	果城劉家弄	多系宦裔、世襲指揮二世祖劉晟于永樂3年、任職定海衛指揮、遂定居。		果城劉家弄劉氏。	182
64-1	樊氏	明永樂初	?	鎮海城区	樊遠在明成祖永樂初授定海衛世襲指揮簽事、遂定居此。		城区樊氏。始祖樊遠、其先臨淮人、父樊連明初從征有功。	187
64-2	樊氏	明末	大輿鎮	莊市鎮	明末由大輿遷入。	分支有貴州双廟樊氏。	莊市具陸末樊樊氏	187
65-1	蔣氏	明万曆年間	奉化果	青峙	明時由奉化遷入。	分支城灣網輿。	青峙文宣閣后蔣氏	185

65-2	蔣氏	明嘉靖前	小溪（青峙）	白峰鎮蔣家壩	拋白峰蔣家壩蔣氏家譜記。先世約在明嘉靖間自小溪（青峙）蔣家遷此。		白峰蔣家壩蔣氏	185
66-1	鄭氏	明初	河南滎陽郡	鄆隘貼水橋	明初由河南滎陽遷入。		鄆隘貼水橋鄭氏	181
66-2	鄭氏	明初	河南滎陽郡	大隈先鋒山下	明初由河南滎陽遷入。		大隈先鋒山下鄭氏	181
66-3	鄭氏	明成化年間	慈谿縣龍山鎮	東城西郊	先世鄭珞、明成化歲貢、由龍山徙居鎮城西郊定居。		城區鄭家邊鄭氏、鄭家弄鄭氏。	181
66-4	鄭氏	明末清初	慈城半浦	計鄆隘湖塘前・紫石前鄭后鄭・橫河塘・高村・柴橋洪溪・三山橫橋頭・白峰埭峙里鄭家。	慈城半浦鄭姓有多支在明代或清初徙入鎮海。計鄆隘湖塘前鄭、紫石前鄭后鄭、橫河塘鄭、高村鄭、柴橋洪溪鄭、三山橫橋頭鄭、白峰埭峙里鄭、司前鄭、小門鄭、上陽壩底等鄭家。		慈城半浦鄭氏	181
67	潘氏	明末	河南滎陽郡→鄆西大隱山	汶溪鎮	明末一脈遷汶溪。		汶溪潘氏、明万曆年間由河南滎陽郡遷至鄆西大隱山下。	185
68	薛氏	景泰・天順年間	鄆東新莊	城関（即東城）	明景泰天順年間自鄆東新莊遷入。		城関薛氏。始遷祖文斌、其六世孫三才、三省曾任兵礼部尚書、建宅祀薛家弄。	187
69-1	嚴氏	洪武年間	安徽	下部橋	明洪武年間從安徽遷入。	後裔一支遷大隈頭、一支遷定海、一支遷鄆東大崇。	下部橋嚴氏	185
69-2	嚴氏	明時	福建	小港泥灣	明時由福建遷入。		小港泥灣嚴氏	185
69-3	嚴氏	明時	鄆東大畝田	鄆江小溪・武林余杭・慈溪鳴鶴場又廟・赫山・長石橋南・寧海縱城・黃壇・定海金塘	明時支派四衍于鄆江小溪・武林余杭・慈溪鳴鶴場又廟・赫山・長石橋南……。		唐時翰林嚴珪任官明州……遂卜居鄆東大畝田、為甬之始祖。	
70-1	鍾氏	明初	?	莊市鎮	明初遷入。		莊市鍾包家鍾氏	185
70-2	鍾氏	明弘治年間	?	柴橋鎮沙溪・外鍾・里鍾・鍾家壩・姚江岸	明弘治年間遷入。		柴橋沙溪鍾氏、外鍾氏、里鍾氏、鍾家壩鍾氏、姚江岸鍾氏皆同宗。	185
71	韓氏	明弘治年間	慈谿縣五里馬韓家	長石韓洪	明弘治間由慈谿五里馬韓家遷入。		長石韓洪韓氏	186
72	顏氏	明嘉靖間	山東	餘范	明嘉靖時遷自山東。		餘范顏氏	187
73-1	戴氏	萬曆35年	塘里戴	臨江鎮中官路	其始祖有兄弟六人、明萬曆三十五年、從塘里戴分遷于此。		臨江中官路戴氏（分前中后）	184
73-2	戴氏	宣德年間	鄆西黃古林	新路東壩	明宣德年間由鄆西黃古林遷入。		新路東壩戴氏	184
74-1	顧氏	建文年間	慈谿縣文亭	東岡壩	東岡壩顧家、明建文年間由慈谿文亭遷入。		東岡壩顧氏、源多出昆山、子孫遷居姚江河岸。	182
74-2	顧氏	成化年間	慈谿縣文亭	望娘山下四顧壩	鄭隘后洋顧、明成化年間由文亭遷入。		鄭隘后洋顧氏	182
74-3	顧氏	万曆年間	慈谿縣文亭	顧家橋	顧家橋顧姓、明万曆間由慈谿文亭遷入。		顧家橋顧氏	182
74-4	顧氏	嘉靖年間	慈谿縣文亭	大隈壩頭	大隈壩頭顧姓、明嘉靖時由慈谿文亭遷入。	子孫四衍、有烟墩顧、橫山顧、鄆隘楊后顧、新隈塘灣顧、三山隈河顧、穿山南顧等。	大隈壩頭顧氏	182